

# 国立国語研究所学術情報リポジトリ

## 秋田県男鹿市脇本大倉方言

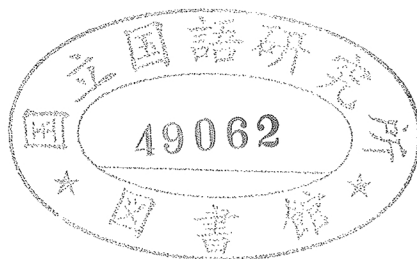
メタデータ	言語: Japanese 出版者: 公開日: 2020-10-09 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 北条, 忠雄 メールアドレス: 所属:
URL	<a href="https://doi.org/10.15084/00003026">https://doi.org/10.15084/00003026</a>

方言録音資料シリーズー6

# 秋田県男鹿市脇本大倉方言

北 条 忠 雄 編

1 9 6 8



このテキストは、総合研究「地方における話しことば教育法改善のための基礎的研究」(代表者大石初太郎)の一部として、研究用の資料として作られたものである。

方言の録音方法、方言の表記の方法などのあらましについては、別に作った「方言の録音とテキストの作成について」(国立国語研究所 話しことば研究室編)を参照されたい。

ここに収めた方言の録音とテキストの作成とは、秋田大学教授 北条忠雄 が担当した。

国立国語研究所



1001877792

# も く じ

収録地点とその方言について .....	2
表記について .....	3
本 文	
(1) <なまはげ>の話 .....	5
(2) 鳥コの話 .....	9
(3) 訪問の対話 .....	12
(4) <昔は苦勞した>という話コ .....	13
(5) <謎>よもやま話 .....	21
(6) 弁慶の話 .....	27
(7) 男鹿地震の話(その1) .....	31
(8) 男鹿地震の話(その2) .....	37
(9) お屋の対話 .....	41
(10) おじいさんとおばあさんの <sup>のど</sup> 喉コ .....	43
(11) 餅のかぞえ歌 .....	44
(12) 若い時の話ちよっぴり ―夫婦仲よくかせいだこと― .....	45
(13) やづのめ ―一つの花に実が八つなる梅の話コ― .....	46
(14) 繁次郎という男の話 四つ	
① 鯨 <sup>かど</sup> は川に .....	48
② 紅 <sup>べに</sup> 餅 <sup>もち</sup> .....	49
③ 山さ行ってマギきり .....	51
④ 若 <sup>わが</sup> 勢 <sup>じえ</sup> ぶり .....	52
(15) 昔 話	
① 松かさ三升で炊事 ―嫁の資格試験― .....	54
② <やぐわん>と<めくされ>それに<じらみたがり>の話 .....	57
③ 狐とむじなとを化かした話 .....	60
④ 無実の罪に泣く如来さま .....	63
⑤ ダンゴがドンになった話コ ―コブのおかげでやっとながダンゴに― .....	66
⑥ 風雅を解するジッチャとバンバ .....	68
⑦ 餅粉の整鼻術 ―昔の整形外科― .....	70
⑧ 米ぶぐと粟ぶぐ .....	72

## 収録地点とその方言について

### 1. 地点名：<sup>あきたけん おがしわきもとおおくら</sup>秋田県男鹿市脇本大倉

### 2 収録地点の概観

船川線脇本駅から下車左折して4分ほどにて更に左折、船川線の踏切を越えて道路を北上すれば左手に見える（田圃をこえて）のが大倉である。さらに15分ほど北上、左折してこの部落に入る。北西に寒風山を望み頂上の展望台とさだかにみとめ得る、寒風山麓の小農村である。かつて寒風山は樹木も鬱蒼と繁茂していた由で村人は田におり山におりて働くのが日常の仕事であった。現在は農業がもっぱらである。（山に働きに行くのもオリルという）

### 3. 収録した方言の特色

録音したものの中で特に留意したい現象は、

1. 推量に由利方言に見えるデロが見えることである。

ドゴサ ツレデ イゲバ イインデロ 【10】

但し由利の如くに広くあらわれているということはできず又＜ベェ＞も見えている。

2. 由利や平鹿雄勝を除いて意志法は、秋田方言では、終止形を使用するのが普通であるのにここではヤロガ（しょうか） コロガ（きょうか）などの用法が見えている。イマダケァ シノダケァ タエヘンダデァ 【4】イマダケァ＝イマダバ（ケァ＝バ）シノダケァは秋田方言では死ヌゴッタバが普通である。シノダケァは＜死のうだば＞である。北越後でいうシノンダラに当る。

3. ガエ [gae] に、全く疑問の意味がない単なる＜詠歌＞としか考えられないものが見えている。

4. 秋田全般にヤルとケルとをすべてケルで表現する。ところが南秋田郡ではダスは相手にケルことでありケルは自分へ（くれる）ケルことである。普通のダスはどういうかとなるとこれはトダスという。（男鹿地震のところに見える）

### 4. 地点選定の理由

特別の意図はなかったわけであるが、ただ秋田市周辺或はそれに近い圏内が案外おろそかにされ又調査者自身としてもその傾向があったため、検討しておく必要があると考えたこと、同時にこの脇本あたりは男鹿半島と南秋田郡との境目にあたり、何か特異な現象もと考えられたこともあった。結果は果然注目すべく、向後さらなる調査と討究とを要することを確認した。（上記に一部摘録）

## 表 記 に つ い て

〔指定の字母以外に使用した字母、および使用した補助記号〕

特になし

表記は大体<1966-10-20>の<方言の表記について>に見られる表記法に従った。それと異なる点は大体次の通りである。

- (1) <イ>と<エ>とは一応同じ phoneme と判断され、かつ表記の便も考慮して〔e〕とした。〔e〕は〔i〕〔u〕〔e〕の中間あたりに位する母韻と考えての処置である。
- (2) <シ>と<ス> <チ>と<ス>に限り中舌母韻記号を使用した。例えば〔sɨ〕〔sɯ〕, 〔cɨ〕〔cɯ〕 但し両者とも一つに統一せず<シ>に近く聞えるものを〔sɨ〕<ス>に近く聞えるものを〔sɯ〕とした。他のイ列 ウ列には中舌母韻の記号は用いていない。
- (3) カ行タ行の語中有声化は一般に補助記号〔ゝ〕〔ゞ〕を使用しなかった。一々濁音に表記することとした。というのは〔ゝ〕で終始すると、濁音でいわれたのに〔ゝ〕を入れ忘れたのではないかと心配されるからである。但し少数〔ゝ〕を用いた。
- (4) 〔k<sup>1</sup>æ〕〔k<sup>2</sup>ɛ〕〔k<sup>3</sup>e〕 一応この三者を区別したが、2と3と境目あたりはどちらにしたとしても差支えない。
- (5) 共通語訳はその意味を、解説を俟たずに把握しやすくするために、意識して当用漢字以外をも使用してある。

秋田方言の録音

1967・2・26

秋田県男鹿市脇本大倉

昭和42年2月26日 <sup>あきたけんおがしわきもとおおくら</sup> 秋田県男鹿市脇本大倉で録音したものです。

脇本はもと南秋田郡に属し、秋田から船川にいたる船川線の船川へあと二つ目というところにこの脇本の駅があります。秋田市から脇本駅まで鉄道の距離で、31.9キロ(メートル)あり、駅から大倉(被調査者宅)まで徒歩約25分です。

取材録音の場所は、脇本大倉の吉田運蔵さんのお宅で、登場するかたがたは、おじいさんの吉田<sup>(夫)</sup>運蔵さん84才とそのおばあさん吉田<sup>(妻)</sup>ナツさん77才、それに83才の、吉田さん宅から近所へ嫁入りした安藤リワさんです。

語り手の中心となっているのは吉田ナツさんで聞き手は(秋田)県立男鹿高等学校の菊地教諭とわたくし北条です。

秋田市も、この脇本のあたりも(珍しく)もう雪はすっかり消えてよくはれたうらかな日和でした。

# (1) 《なまはげ》の話

録音日時 1967年 2月 26日  
(同 9月 3日 臨地検討)  
録音場所 秋田県男鹿市脇本大倉<sup>おがしわきもとおおくら</sup>  
吉田運蔵 氏宅

話し手

(略号) (氏 名) (性別) (生 年) (職業) (居 住 歴)

N 吉田 ナツ 女 明治22年生 農業 脇本 だけ

R 安 藤 リワ ♀ ♀ 17年生 ♀ ♀

解説: 男鹿半島の、今では広く宣伝されている、〈なまはげ〉[ namahāge ]の行事を話し合っている。昔の〈なまはげ〉を回想して今のそれと比較して、昔のは[ ag-wdæ ]で[ okkanegatta]が、今のはそうでなく、それに餅や酒などよりもむしろ銭[ dgen+ ]を欲しがっているなど話して、御代も変れば〈なまはげ〉も変わるもんだとやや嘆息している風情。

N namahāge-daba hontone u-u-u-qte anoadari a(rā)-  
ナマハゲは、ほんとに ウウウって あのあたり  
(おそろしくて)  
geba ora emademo daqkirado omou-dena, sono  
歩くと 今でも ダッキラと 思うよな、 すぐその  
(ドキッ)  
adarisa kitaga-do omote.  
あたりへ 来たかと 思っ。

R ore-no masako-gada daqte emademo oqkanæ  
うちの 正子など だって、 今でも こわい  
恐  
oqkanæqte jūdōmo, un kono ojanaqte-gara  
恐いと いうけれど うん 子供の 親になってから  
sje-ba namahāge oqkanæqte kagureru hito  
それなら ナマハゲ こわいといって 隠れる 人  
dogo-ni eruqte.  
どこに いるって。



N son-de næ.  
そうでない。

R un ↗  
うん ↗ (ケゲンな面持) ↗上昇調  
怪訝

N sonde næ. ore-no kodoragada-daqtē, ano nan-  
そうでない。 オレの家の 子供たちだって, あの なん  
(次のコトバを何と言

damono, konda kōdo kusira kagurenæ-de ere-  
だもの, こんどは こんどこそ 隠れないで いろ  
でしたらよいかちょっとよむときのコトバ)

joqtē juēba konda-ha kagurenædæ-nanka eqtē,  
よって いえば こんどは 隠れないよなんか 言って,

Ndataqtē ke-ba jaqpari oqkanegaru-mono-na.  
それでも, (ナマゲが) やっぱり 怖がるものなあ。  
くれば

R 笑

N ore-no masajugi-daqtē, sje-ba āndano kōnda-  
うちの 正之だって, そんなら ああだの こうだ

no ewarerujori ora ha hajægu kagureru-daqtē,  
の 言われるより オラァ 早く 隠れるよと言って,  
(俺)

(不分明), kagureda monda. sitaba, kondo jaq-  
…………… 隠れた もんだ。 そしたら, こんど やっ

pari masajugi edaga, masajugi edaga, benkjo  
ぱり ナマゲ「正之 いるか, 正之 いるか, 勉強

suruga, sanega, (笑) konda sogora-adari  
するか, しないか (といわれると こんどは そこらあたり  
こわがって)

hasjede araqte nānmo kānmo narane-mononaja.  
走って あるいて どうも ならないものねえ。

R ore-no odo-daqtēmo, ciqciæ dogi, ano aedaq-  
うちの 親仁だって, 小さい 時, あの あれだっ  
(Rの息子)

tadæ, ano zīnzo-ni kagaqtē nede-aqtē-mono.  
たけ, あの 腎臓(病)に かかって 寝て おったもの。

N N · N ·  
んん んん

R s+taba kondo nedede, namahā̃e kitamama-dja  
 したら こんど 寝ていて ナマハゲ 着たままでは

udadean tegane .....

むさぐるしいので  
 ~アンテガネ は理由表現

N hontone so· ju· monde aqta.  
 ほんとに そう いう もんで あった。

R a· ja· sosite agudæ næntegane gomen site  
 うん、 そうだ。 そして、 おとなしく するから 御免して

kereqte.  
 くれとって。

N sjeba kondo gomen site kereqte wagino mono-  
 すると、 こんど 御免 して くださいと言って、 傍の 人

gada eqsjokenme fuqpate ara qte < R sage  
 たちが、 一所懸命 引っ張って 歩いて 酒

nomasjede > sage nomasjedena < R moçi dasi-  
 飲ませて 酒を 飲ませてねえ 餅を 出し

te >  
 て

N namahā̃e dogo-gara kitabajaqteba oedara-no  
 ナマハゲよ、 どこから 来たかという と 大平の

sankici-da. kada-no sūpa wadaqte jaqtoga  
 三吉だ、 湯の 氷を 渡って やっとか

kitaqtena.  
 来たといってね。

R ndante  
 そうだ。

N oedara-no sankicidanoqte kigane (anda).  
 大平の 三吉だなどって きかないもんだ。

R (何か低声でつぶやく)

N ema-no namahā̃e-daba agudæ-ne.  
 今の ナマハゲは おとなしい。

R u·N  
うん

N nanmo oqkanæguna, sosite sjeba futogæri-jori  
少しも 恐ろしくない, そして すると 一遍しか

konæ monda mono.  
来ない もんだ もの。

R Ndana.  
そうだ。

N modo migumi kitajaç sjeba,  
以前は 三組 来たのに, すると,

R migumi futogæri-jori konæante kifu-mo futa-  
三組 一遍しか 来ないから 寄付も 一遍

gæri-buri oria-no uç dasitejara.  
ぶん オレの うちが 寄付したよ。

N a·e mada mada çideqko dasita. moçi-daba  
うん まだ まだ 祝袋 出した。 餅は

dasite janne.  
出して やらない。

R moçi eraneqte ju· mono, sjeba, kane-bari  
餅は いらないと いう もの, すると, 金ばかり

hosigaqte nanto  
ほしがって 何と

N ema mijo kawaqte koeba namahæe-made kawaq-  
今, 時世が 変って くと ナマハゲまで 変っ

te,  
て,

R Ndaja.  
そうだ。

N kondo, futagæri migæriæarugu jaç kondo fu-  
こんど, 二遍 三遍と 歩くのを, こんど, 一

togæri-ni siru monda-mono.  
遍に する もんだもの。

## 【2】 鳥 コ の 話

録音日時 1967年2月26日

録音場所 秋田県男鹿市脇本大倉  
吉田運蔵 氏宅

話し手

(略号)	(氏 名)	(性別)	(生 年)	(職業)	(居 住 歴)
N	吉田 ナツ	女	明治22年生	農業	脇本 だけ
R	安藤 リワ	〃	〃 17年生	〃	〃
S	吉田家主婦	〃		〃	〃
H	北条 忠雄		(聞き手 編 者)		

解説: <鳥>についての質問対話。いわば共通語的のHと方言N・Rとの対話ということになるが、方言側がN・Rと、それにSも加わっているの、それにHが方言をかなり理解するとともに(NRSが)考えているので、N・Rの<話しことば>は方言とまず考えても支障はない。内容はダオ(朱鷺ートキー)から、フクロ・ミミヅクに及んでいる。フクロウをこのあたりで<フグログ>ということが見えている。

H so:suru-to, dao no kuruno-wa, nawasiro-e ori-  
 そうすると ダオ の くるのは 苗代へ おり  
 (朱鷺の方言)  
 ru koro kuru wake-desjo:ka.  
 る 頃 くる わけでしょうか。

N nantoga-nandaga ora wagara-ne. wagarane-domo  
 どんなものやら オラ わからない。 分らないけれど(とにかく)

harusagi nanne-ba konæantenæ. nawasiro-daba ha-  
 春先に ならなければ 来ないのではない? 苗代は 春

rusagi-ni nareba kagaru-mono. ora emi-daba siranænta-ja.  
 先に なれば 仕事にとりかかるもの。 オラ 意味は 知らないんだや。  
 (トキそのものの本体ほどの意味)

H sa: dao-wa mita kodo nae wake-desu-ne.  
 さあ、ダオは みた こと ない わけですね。

N  
R   nda  
      そうだ。

N   ga<sup>N</sup>-no   e<sup>N</sup>da(mō)da-ba   jaappa   modo-daba   kitata-  
      雁の            ようなものは            やっぱり    以前は            来たけ  
  
      taqte,   konogoro-daba   ga<sup>N</sup>-mo   ko-nægunæ?  
      れど            このころは            雁も            来ないではない?

R   nda   nda.  
      そうだ,  そうだ。

H   fuguro-nado   orimasuka.  
      フクロなど            おりますか。

R   hae   fuguro-daba   emasu.  
      はい,   フクロは            います。

N   nda.  
      そうだ。 (Rの<はい, フクロはいます>に相槌を打った)

H   mimidzuguwawa?  
      ミミズクは?

N   mimidzuguwate   jadzu-sjæ   fuguro-no   koqte  
      ミミズクと            いうのは            フクロウの            ことでは  
  
      negæ.  
      ないかね。

S   cigau.  
      違う (小さい声)。  
          低い

N   so·ga,   cigau-gæ.  
      そうか,            ちがうかね。

S   fuguro-no do-sa mimi cuderu. (このあたりHへの応答でなく  
      (ミミズクは)フクロの    所へ    耳が    付いている。 お互の私語的なもののため低  
      声ではっきり聞き取りがたいものもあるが大体こんなところであろう。)

N   hontone-ga.  
      そうか。

R   daqte,   fugurogu-daba   negoqko-no   cæraqko   midæn-  
      でも            フグログ(方言)は            猫の            顔            みたい

da j adzɥ-de-ne .

なものでない?  
(急声)

N m i m i q k o c ɥ-de-g a .  
耳 付いてか。

R u N .  
うん(そうだ)

N d a q t e s o r e-s j e m i m i d z u g ɥ-d a k o (q) t e , s i t a r a -  
だって それ みみづくだ ことよ, したらよ

j æ . o r a f u g u r o g u ' h o : s e n ' q t e n a g u a n d a b a k i : -  
オラ(俺) フグログの ホーセンとって 鳴くのなら 聞  
(<耳がついていたら>の気持)。

d e r u t a q t e - n a .  
いている けれどなあ。

R n e g o q k o - d o h i t o c ɥ-d a - g o q t a .  
猫と (まるで)おなじだ。

N ' h o - s e n ' q t e j u ɛ b a s o r a e g u n a r u s i , ' h o - h o - ' q t e  
ホーセンって いえば 天気が よく なるし, ホーホーって

j u ɛ b a a m e f u r u q t e n a j a .  
いえば 雨が 降るって いうな。

R u N .  
うん(そうだ)。

N s o - j u - d e n æ . ' n o r i c ɥ k e h o - h o - ' t e - b a a m e f u r u - q -  
そういうでない? ノリツケ。 ホーホーっていえば 雨が 降るっ

t e j u - s i , ' n o r i c ɥ k e h o - s j e ' q t e b a s o r a e g u  
て いうし, ノリツケ ホーシェっていえば 天気が よく

n a r u q t e (笑聲)。  
なるって……。

### 【3】 訪 問 の 対 話

録音日時 1967年2月26日

録音場所 秋田県男鹿市脇本大倉  
吉田運蔵氏宅

話し手

(略号) (氏 名) (性別) (生 年) (職業) (居 住 歴)

N 吉田 ナツ 女 明治22年生 農業 脇本 だけ

R 安藤 リワ ♀ 17年生 ♀

解説： 晩，NがRを訪問。話ははずまず簡単な内容で終わってしまっている。

N ba·ba edaes~~w~~ka.

婆！ いたかね。

R ha·e.

はい(いるよ)

N simaqtaga-ha.

(ごはん) 終わったかね。

R a.

はい。

N oedaqke mada (eN) wayko-mo arawanedomo omæ-  
オレなら まだ お碗も 洗わないけれど お前

sa as~~w~~ni kitæ.

のところへ 遊びに 来たよ。

R jogu kita-nesi madzu aga qte kunansje(qtejuq-  
よく 来たね まず 上って ください(ってこんな風に言

tegæ).

います。

N un omæ-no agacjan mada oqkigu naqtajo.

うん お前の 赤ちゃん また 大きく なったね。

R kono-kræ naqta(j)e, na·Nto agudæ-de nanmo kan-  
このくらいに なったよ。 なんと わんはくで どうも

mo narane.  
ならない。

N nda. haqte arugu kode-ha..  
そうだ。 這って 歩く こったろうね。

R n· ande arugu-ha..  
ン (這わないで) 歩いて(立って)歩くよ。

N omæ-no ka·sanmo jama-sa eqta-gæ..  
お前の 母さん<sup>かあ</sup>も 山へ 行ったかね。

R egane..  
行かない。

N ũN e·na..  
フウン いいなあ。

#### 【4】 〈昔は苦勞した〉という話コ

録音日時 1967年2月26日

録音場所 秋田県男鹿市脇本大倉<sup>おがしわきもとおほくら</sup>  
吉田 運蔵氏宅

話し手

(略号) (氏 名) (性別) (生 年) (職業) (居 住 歴)

N 吉田 ナツ 女 明治22年生 農業 脇本 だけ

R 安藤 リワ ♫ ♫ 17年生 ♫ ♫

解説： 二人の老婆がしみじみと語り合っている。昔と今とをくらべ昔の農業の容易でなかったことが、今の状態とひきくらべられて、具体的に語られていて、それに昔のシツケのきびしさと今の安易さあるいは放縱さというかそういうものにも言い及んでいて、まことに胸を打つものがある。さらに特筆したいのは、この苦勞して来た老婆が働けなくなった今いかにも生きていることとお笑止だという気持で生きていることである。この対話は老婆二人が低い声で話しあいはじめ



たのを——老婆たちはこんなのは録音されていないと考えていたらしい——録音したもので真実の胸にあるものを吐露した対話である。

- 〔いいなおして〕
- R na:nto jppari wagæ mono daba wagækyte sjeba  
 なんと やはり (若いものは) 若くて(若い時) ずいぶん
- nanbo kuro.sitamo ade ne ore.  
 ずいぶん 苦労したが その価<sup>あたい</sup>がないよ、オレは。
- N nantosite. kono baba nante citobari kurosita  
 何として、 この 婆など 少しばかり 苦労した
- hito-dene. so(s)ite sora hasi eqpon tajoqta-  
 人でない! そして それ 箸 一本 (他)にたよ<sup>ひと</sup>っ
- de. wage nægu kamādo moqte ema nareba nani  
 たというわけでも なく 家を 持って 今に なれば 何一つ
- ne.de kodo nægu a. jaqte kurasiteru-mono.  
 ないという ことも なく ああ やって (立派に)暮しているもの。
- kono hito-no dae-ni kamado kosirada<sup>N</sup>de unte  
 この 人の 代に 家(財産)を こしらえたんで ほんとに
- na<sup>00</sup>i s<sup>i</sup>ta hitoda.  
 難儀 した 人だ。
- R ora ema-daba sono kanzjo nee. nanmo sanæ-te-  
 オラ 今なら そんな つもり ない。 何も しなくて  
 (勘定)
- mo as<sup>w</sup>nderarunda.  
 も 遊んでいられるもの。
- N ndaena. as<sup>u</sup>nde.  
 そうだよなあ、 遊んで。
- R N.  
 んー。
- N kudagedae.  
 食うだけだね。
- R sore-demo ore<sup>e</sup>-no kijosi-dake, baba mo. ni-  
 それでも、 うちの 清なら(は) 婆 もう 二

neN sinansede kereja-te jumonda.  
 年は 死なないで 呉れやと 言うもんだ。

N N.  
 んー。

R ema-dakje sinodakje taehendæqte jumonde.....  
 今(は) 死のうなら 大変だって いうもんで .....

N maggo-ga.  
 孫か?

R N' ko ho'ræ. N kadede morauqtega.  
 んー、子よ、ほれ。 かでで (世話して)もらうというのか。

R N  
 ん。

R dakjæ, aja (anna mon hicujode) egiderajæqte...  
 したら、 まあ ( なら が必要で ) 生きてるのかって.....

N egidera-jadzæ warigodo newaja. kwasjeru  
 生きているの わるいこと ないよ。 食わせ(してくれる)る

hito sjeba egidereqte jukoqtaba nanbo-demo  
 人 (それなら) 生きていと いうのなら、 オラ(俺)いくらでも

egira.  
 生きるよ。

R nani..... emadake sje-ba manma sjaqto nizjn  
 なにに、 今なら (すると) 飯 サァーと 二杯も  
 (少い形容)

are-ba egideraru mono.  
 あれば 生きていられる もの。

R .....nani anmari nagægu egideru jadzæ-mo  
 .....なににあんまり 長く 生きてる のも

egunedea.  
 よくないよ。

N uN. ↗  
 うんー ↗

R anmari nagægu egiderw-mo egunemonda.  
 あんまり 長く 生きてるのも よくないもんだ(いいもんでない)よ。

N daqte sigadanena.  
だって 仕方ないよ。

R aja sinudaqte sinareneshinaja.  
ああ、死ぬといったって 死なれないしなあ。

N waqæ mono-ne cito-ando sasjeretataqte egir  
若い 者に 一安堵 させろといっても 生き

deru mono nanto site, orananka futaridzure-  
ている ものを 何と するって、 オラなんか 二人連れて

de jaga naqteru-domo.  
厄介に なってるんだが。

R esogasi dogi-daba so-ju-taqte kondo horjæ  
急がしい 時なら そういっても こんど それ

...singodo negu naqte nareba kondo jaqpari  
仕事が なく (なって) なれば こんど やっぱり

konoda sjoside.....  
こんどは 笑止(恥ずかしく)で.....

N sjosi-to omoeba sjosi-si, ora-nante do-se  
笑止だと 思えば 笑止だし、 オラなんて どうせ、

nani..... koremademo asu<sup>(反語法)</sup>ndemo edabesi, ku-da-  
なあに ..... これまでも 遊んでいたわけでもないし 食うだ

ge-no kodo sitanda-mono, nani. ema-mi-jo-daba  
けの こと したんだもの、 なあに。 今時では  
いまだ

ta-mo kawe-ne-si jama-mo kawe-ne-taqte, ku-  
田も 買えないし 山も 買えなくても、 食

ta-kiri-ni suru-tatate, modo sje-ba nanto  
うだけで 何も出来なくても、 それなら もとは なんと

nanda monde aqtate heba-naja.  
どうした もので あったってえ。

R Ndaqte.  
そうだ。

N ema-daba nanbo hadarada-tataqte ku ade-ne  
今は どんなに 働いたところ 食う アテには

sarene, nandara hitodaqte, maruqkiri kikaε-ne  
されない, どんな 人だって, 何もかもすっかり 機械に

bari jaqte-na.  
ばかり やってねえ。

R N.  
ん

N a ja:site omægada ndaene nenedi ene kogune  
あのようにして お前がた あのように 寝ないで 稲 ときに

aqtari, soekoso jorugara joru-made hadaragu-  
歩いたり, それこそ 夜から 夜まで 働きに

ne aqte. ema no mono-daba dare sjeba.  
歩いた。 今 の 者なら 誰が そんなことするものか。

R aeja.  
そうだ。

N hiruma-made ene agedekite, hiruma-kara  
昼間まで 稲 上げて 来て, 昼間から

kome-ne site simaqte cianto siteru-denaja.  
米に して しまつて, ちゃあんと しているよなあ。

R honta un  
ほんとだ, うん。

N ene kara agedaqteba koguni ebæ.  
稲 から 上げたといえは もうこくに いいだろう。

R ema-daba e. (聞きとれない)  
今は いい(なあ)

N N' modo бага-midæde aqtadena.  
ん。 むかしは まるでバガみたいで あったなあ。

R ndae.  
そうだねえ。

N mamande enjo-ne cunde sjogwadza kuru-made  
すっかり 稲 鳥に 積んで, 正月が 来るまで

kagate ene kanagogi moqte koede.  
かかって 稲を カナコギで こいで。

R hONTone ano zjogen moqte osu adzu-ne ano fun-  
 ほんとに あの ジョゲン で 押す のに ヒビ  
 (皮軍)

biN jaman naqte-na.  
 が 山に なってな。

N nda. site kojasi te ora-nante ogosjenegaqtadæna.  
 そうだ。そして、 とういうようにして オレなんて (指を) おこせなかったなあ。  
 (指を屈めておこす所作をする)

R jasame-ba kono te-no naga buru buru buru buru-  
 休むと この 手の 中 ブル ブル ブル ブル

qte are te kojasi te hitogærine ogosaene  
 と、 あれ とういうようにして 一遍では おこされなかった

monde aqtadæna, ano zjogen.....  
 もんだったなあ、 あの ジョゲン .....

N hONTa. komeqko-no zjugohjo-mo fugu-dage  
 ほんとだ。 米の 十五俵も ひくだけ

ene tamere-ba niwa-sa jama-N narudage tama-  
 稲を ためると 庭に 山に なるくらい たま

qta-monda-dæna ja, kanagogi-ne konda dogi-  
 ったもんだよなあ、 カナコギに こいだ時だ と。

dabana. sore kondo edzi ndzi kagaqte tada-de.  
 それを こんど 一日 かかって たたいで…。

nangi sji ta-do omoeba eman nare-ba бага-mi-  
 難儀 したと 思えば 今に なると バカみ

dæda.  
 たいだ。

R daqte sono to-ri-da qta (mono).  
 だって、 全くその 通りだったもの。

N N.....  
 ん。

R ema-nante nadzu-mo furi-mo kudzusita hana-  
 今は 夏も 冬も 靴下 放

sanede tajama-sa haqtera.  
 さないで 田や山へ 入ってるよ。

N N.  
ん。

R sje-ba emanē nawasiro-sa orire-ba asi horo-  
すると、 今に 苗代へ おりれば、 足を 入

qte-mo <N hontoda> hādasī-ni naqte haētaje.  
っても < ほんとだ > はだしに なって 入ったよ。

N so(r)e-koso, nawasiro-sa haeru joni naqtara,  
それこそ 苗代へ 入る ように なったら、

jome mugo nīgere-te, so eqtatate ema-no  
嫁 賢 逃げろって そう 言ったにしても、 今の

mono-da-kjæ nanbo nawasiro-sa haētaraqte  
者なら どんなに 苗代へ 入ったところで、

fukæba fukæ joni togonāgaderadaqte hagi <R  
深ければ 深い ように トゴナガとやらを はき <R  
(特長-特別に長いゴム長靴)

Nda > asæ-ba asæ joni suēdenguç-dado nanda-  
そうだ > 浅ければ 浅い ように 水田靴とか 何とか

do so ju jaçu hāde, e-sa āgate kita-do omōeba  
そう いう ものを はいて、 家へ 上って 来たかと 思うと、

asi-mo arawanede, ta-sa eqte kite-mo sono  
足も 洗わないで 田へ 行って 来ても その

manmanē aga-te hīzjako oqte manma kuqtera.  
ままだに 上って 膝を 折って 飯を 食ってるもの。

<R, aja nda> ora sjeba ta-sa eqte keba e-no-  
< うん、そうだ > オラ、 すると、 田へ 行って くと 家の

mesa minna hāndaga ni naqte kiru monomāde  
前に みんな 裸 に なって 着る ものまで

minna oede kite soete beçda açu cūkede  
みんな おいて 来て そして 別なのを つけて、

soete mada oride eguqteba mada sore 不分明  
そして また おりて いくといえは また それを (「着て行った

もんだ」くらいのところ)

R .....mugasi-no mondakenara hontone ema-no.  
昔の ものなら ほんとに 今の

hito-ni jarasjereba.....  
人に やらせれば

N daqte, emagara mireba oradaçi jogu jamæ  
だって, 今から みると オラ達は よく 病気を

sanæde egideda-do omouna.  
しないで 生きていたと 思うなあ。

R ndantega.  
ほんとだ。

N soëdemo kono ora sjeba nanboga zjo-bune  
それでも, この オラ すると, どれほど 丈夫に

degida monnandaga omædano orada-nante hoga-  
出来た ものなのだから, お前だの オラなど よそ

gara mimæ hitocu moraçta kodo nædene.  
がら 見舞 一つ もらった こと ないではないか。

R hontaganena.  
いかにもそうだ。

N nanto, .....cjo sinkicibaba nederagteqte eqta  
なあと, 今日 信吉の家の婆 寝ているって いった  
(Rの家)

kodo-mo næ-si, mogu-no baba-dano dziqcja-dano  
ことも ないし, モグの 婆だの 爺だのが  
(Nの家)

nederagte  
寝ているって,

(R) sosa minçuko koboreda-dæ (N) uN ↗  
そこへ 水が こぼれたよ うん ↗

(R) minçuko koboreda (N) ndaga (R) uN  
水こ こぼれた そうか うん

soeqta kodo kida kodo nædene.  
そういった ことは 聞いた ことが ないではないか。

S kida kodo næde ne-do.  
＜聞いた こと ないではないか＞とよ。

R Nda.  
そうだ(そのとおりだ)

## 【5】 <謎> よもやま話

録音日時 1967年2月26日  
録音場所 秋田県男鹿市脇本大倉  
吉田運蔵氏宅

話し手

(略号)	(氏名)	(性別)	(生年)	(職業)	(居住歴)
N	吉田 ナツ	女	明治22年生	農業	脇本だけ
R	安藤 リワ	〃	〃 17年生	〃	〃
S	吉田家主婦	〃	40才くらい	〃	
K	菊地正信		(聞き手 高校教諭)		
H	北条忠雄		(聞き手 編者)		

解説: <口の<sup>チカフ</sup>ない梅>(卵) <削れば削るほど大きくなる>(シェギー小川) <クロペジ  
ンジョの力はり>(自在鉤) <ハリのヨエにバンバイドウンデル>(蜘蛛) 後二者が発音や  
アクセントも関係して話がつれる。ウンデルなら<子持つ>(生んでる)ことだ。これはウン  
デルだと80才の老婆という。ウムは<續む>でこれがまたもつれて愉快である。

N sore-gara sono kuçino ne taru-wa tamāgo.  
それから その 口の ない 梅は 卵。

R 笑

N kēzure-ba kēzureba futegu naru.  
削れば 削るほど 太く なる。

R 笑

N ba·ba togedjæ.  
婆 解けよ。





N kurope-zin zjo, kurope-zin zjo-no cīkarahariqte  
クロベジンジョ, クロベジンジョの 力はりっていうのは

sore furoe monda.  
それ 古い もんだ。

R mugasī-no monda. are are ano kāngi-no koqta.  
むかしの もんだ。 あれ あれ あの 鉤の ことだ。

K kuropeqte kuroidesjo. zin zjotena zin zja-to  
クロペとは <黒い>でしよう。 ジンジョというのは <神社>と

onazi imi, zin zjoqtena nno koto-desuka.  
同じ 意味? ジンジョっているのは 何のことですか。

N zin zjoqteba ora-daba sodone tadaqteru are  
ジンジョといえば オラなら 外に 立っている。 あれ  
俺

maçī-no zin zjo-sama.  
町の 地蔵様。

K zizo-samano koto-dana, kuropezin zjo-no cīkarakā-  
地蔵様の ことだな, クロベジンジョの 力鉤  
チカラカギ

gi.

N cīkarahari  
力はり。(Kのチカラカギを訂正したもの)

K cīkarahari, cīkarahari sorega kāgi-no koto.  
力はり, 力はり, それが 鉤の こと。

H kuropezin zjo-no,  
クロベジン ジョの,

N cīkarahari  
力はり

H cīkarahariqte do' ju' koto-desjo.  
力はりというのは どう いう ことでしょう。

N cīkara, cīkara cujoe-de koqtanda.  
力, 力が強い という ことなんだ。

K kāgi-wa nandemo āgeru-gara cīkara cujoeqtekoto.  
鉤は なんでも 上げるから 力が強い ということ。

N a·e naNdemo.  
そう、なんでも（上げるから）

K kurokutene.  
黒くてね。

N nandara nāNbe kagedemo,  
どんな 鍋を 懸けても、

K hahan, sono kāgi-da-kara-ne, çujoi-to.  
ははぁん、 その 鉤だからねえ、 強いと。

N c+qcjæ jaçu kagedemo, oqki jaçu kagedemo,  
小さい のを かけても、 大きい のを かけても、

H z+zō·kāgi-desune  
ジゾウカギですね。

N kurope z+nzjo-no c+karahari  
クロペ ジンジョの 力はり。

H cikara no cujoeno-o c+karahari-to juNdesuka  
力 の 強いのを 力はりと いうんですか。

N N·da  
そうだ。

K kotae-ŋa z+zæ-kāgi-dasæ-na  
答が <自在鉤>ですな。

N hari-no joe-ni banba edo underu.  
ハリの ヨエに 婆 糸 ウンで（い）る。

K hari-no joe-ni banba,  
ハリの ヨエに 婆、

N banba edo underu.  
婆 糸 ウンでる。

H edo .....hari-no joe-ni ↗  
糸 ハリの ヨエに ↗

N aN.  
うん。

R kũnbonta-bæ  
クモ（蜘蛛）だろう。

N N ↗  
ん ↗

S kũbo-no sũ-dado  
クモの 巣だと。

R kũbo-no sũ  
クモの 巣。

H baNba edo .....  
婆 糸 .....,

N a-e mugasi-daba edo (ũmũmũカト思ウが下の如く聞える)  
うーん むかしは 糸を 積み積みした ものだ ものなあ,  
聞きとれない  
-ni. sosite hari-no joe-ni baNba edo underu,  
...に。 そうして ハリの ヨエに 婆 糸 續んでる,  
nazo kagedaanda.  
謎を かけたのだ。

H hari-no jome-ni,  
ハリの ヨメに,

N joe-ni  
ヨエに,

K joeqte ue-no koto, ue-no koto joeqte hacuoN  
ヨエって <上>の こと, <上>の こと ヨエって 発音  
ヲエ

suru,  
する,

H naruhodo hari-no joeni baNba edo ju  
なるほど, ハリの 上に 婆 糸 ユウ

N edo underuqte  
糸 ウンデルって(いうのだ)

H edonderu ↗  
イドンデル ↗

K ido nuqteruNdesubæ.  
糸 ぬってるんでしょう。

N ko:site edo umuqteba .....edo umuto jueba.....  
こうして, 糸 ウムっていえば .....糸 うむと いえば,

- K ido uNderuNdesuna hahan  
糸 ウンデルンですなあ、 ははぁん。
- N nãpagu narasjeru eni ko· jori kagede <H  
長く ならせる ように、 こう 擦を かけて  
haha· naru·bodo > jaqta monda mono.  
ははぁ! なるほど やった ものだ もの。
- H hari-no joeni banba edo uNderu  
梁(ハリ)の 上(ヨエ)に 婆 糸 ウンデル
- N edo uNderuqte-anda. uNderu-dara moçuantategæ.  
糸 ウンデルっていうんだ。 ウンデルなら (子)持つ(産んでる)こと  
だよ。
- K uNderu uNderu  
ウンデル、 ウンデル、
- N a·  
うん。
- K nu·kodo-ne  
<縫う>ことねえ。
- N n· n· no·goqte neanda kore.  
ん んー、 <縫う>ことでは ないんだ、 これ。
- H cunãgu koto-desjo·  
つなぐ ことでしょう。
- K (cunãgu koto) ha ha·  
(つなぐ こと) は はあ。
- N çineqteru jaçudamono, ko·  
ひねってる のだもの、 こうして。
- H a· cumũgu koto-dana  
あぁ、 <つむぐ> ことだなあ。
- N nãpagu sũru-nada.  
長く するのだ。
- K ha nãpagu-suru-na  
はあ 長くするの(だね)。
- H kumo-no-su desu-ka  
クモの巣 ですか。

N Nda  
そうだ。

H kũNbo-desjo  
クンボでしう。(発音についていう。〔kumo〕でなく〔kũbo〕だろうという意味)

N ~  
R a . kũbo  
うん クンボ

H kũbo-no-su  
クンボの巢

N N.  
R うん。

## 【6】 弁 慶 の 話

録音日時 1967年2月26日

録音場所 秋田県男鹿市脇本大倉  
吉田運蔵氏宅

話し手

(略号)	(氏 名)	(性別)	(生 年)	(職業)	(居 住 歴)
N	吉田 ナツ	女	明治22年生	農 業	脇 本 だ け
R	安 藤 リワ	〃	〃 17年生	〃	〃
U	吉 田 運 蔵	男	〃 16年生	〃	〃
H	北 条 忠 雄		(聞き手 編者)		

解説： 武蔵坊弁慶そのものの話ではない。弁慶の立往生にさも似たる魚刺具のベンケイである。  
＜鯨ノ一本ザシトカケテ牛若丸ト解ク＞＜マグロノ一本焼トカケテ牛若丸ト解ク＞いずれも心は  
＜ベンケイが恐れる＞からだ。このベンケイも、囲炉裡がすたれ電気焼器がさかえ、味の素デラ  
いが一番デラがはびこるとなると、それに人の口（クチ）も奢ってジャコなどベンケイ用の小魚  
などに目もくれない時世となつては、もうそのものも名も忘れられつつあり、やがては永遠に消  
えてしまう。こんな運命のベンケイについていろいろと話してみた。

H ano benke-qtena arimasu(ka) siqte ogededesuka.  
 あの ベンケイというのは (言いなおして) 知って おいでですか。  
 (ありますか)

N modo-daba benke-qtenaja < R N > baba, ko-jo-  
 以前なら, ベンケイというのは, なあ 婆, こういう

do-sa .....kãgoko-sa warako zuqpari sjeđe so-  
 ところへ .....籠に 薬を いっぱい 入れて そ

site sãgedede kono anbaeni anbaena kono-gurae-  
 して 下げておいて こんな, 具合に, 具合な, このくらい

barini açu sãgedede soresa konđo kusi-sa  
 ほどに, ものを 下げておいて, それへ こんど 串に

sasita sagana zuqpari ko- sasitesita monda  
 刺した 魚を いっぱい このように 刺した ものだ

monona. uęsa sãgedede nego kwanne tedoni.  
 もの。 上の方に 下げておいて, 猫が 食わない 程度に。

H emawa anmari mięnaę wagedesuka.  
 今は あんまり 見えない わけですか。

N ema so- sanęanda mono-na. ano ro, ro nemonda  
 今は そのように しない もんだものなあ。 あの 炉, 炉が 無い

mono. erori ne-monda mono. kusi-sa jaede  
 もんだもの。 囲炉裡が 無いもんだ もの。 串に(さして) 焼いて

kuta sagana-no eni Nmęgunetatate erori ema  
 食った 魚の ように うまくないにしても, 囲炉裏 今

ęrori nækute kusisa sasite aburanemonona.  
 囲炉裏が なくて 串に 刺して あぶらないものねえ。

sjeđa kusi-de ne-ba nani-site sore amiwadasi-  
 すると, 串で なければ, なにして, それ アミワタシ

dano ano jare saganajagi danoqte jageba  
 だの あの やれ 魚焼きだの いて, 焼けば

sore ċedo-sa toqte site ku-mono. jogena jaçu  
 それ 瀬戸物へ 取って そして 食うもの。 余分な ものを

moqtete modo-no jo-ni-daba āburanesunaja.  
 持っていて, もとの ようには あぶらないものねえ。

R ~aburanesu.  
あぶりません。

N modo-daba sjeba zjako-demo nandemo cikamede  
もとなら、 すると、 小鯛でも 何でも つかめて

keba benke-mo namo kũzureqtagē sasite sosti-  
くると、 ベンケイも なにも 崩れるくらい 刺して そし

te sore dasi-ni toqte kuqta mondatate, ema-  
て それを ダシに とって 食うた もんだが、 今な

dakjæ na-ni dasiqte jueba jagibosi-dera  
ら なぁーに ダシと いえば ヤギボシだの

daqte-kodeno ko-midæna monosjede kuqta ....  
などいったものや 粉みたいなの もの入れて 食っている ....

ora-mo siranetaqte nibosinandaga jagibosina-  
オラも 知らないが、 ニボシだが ヤギボシ

ndaga kaqte kite sosite azinomodo-dera-daqte  
だが 買って 来て そして 味の素とかいって

sjede sosite kuqteru-de negæ.  
それをいれて そして 食ってるで ないかね。

U kuzirano iqpikizasi to kakete nanto toku, kokoro-  
＜鯨の 一匹刺し＞ と かけて 何と 解く、 心

wa benke-mo komaru. usiwakamaru-wa taihen  
は ＜弁慶も 困る＞。 牛若丸は 大変

cujoi-kara benke-mo komaqta wake-desjo. aite-  
強いから 弁慶も 困った わけでしょう、 相手

ga dekinakaqtadesjo. mada sono kuzira-no iq-  
が できなかったでしょう。 また その ＜鯨の一

pikizasi-wa kuzira-wa o-kie mondesjo. benke-  
匹刺し＞は 鯨は 大きい もんでしょう。 弁慶

wa cięsakaqtadesjo. dakara kuzira-o totemo  
は 小さかったでしょう。 だから、 鯨を 取っても

benke-no naga-ni ireru kodo deginai wake-  
ベンケイの 中に 入れる こと できない わけ



desu-jo. dakara benke-mo komaru-to ko-ju-ko-  
でしょう。 だから ベンケイも 困ると、 とういうと

to-desu-ne.  
とですね。

H kuzira-no eqpon (K) iqpikizasi.  
鯨の 一本…… 一匹刺し

H eqpikizasi-desuka  
一匹刺しですか。

U kuzira-no iqpikizasi-to kakete dasubæ.  
＜鯨の 一匹刺し＞と かけて でしょう。

(N) Nda. (K) nanto togu.  
そうだ。 何と 解く。

H are hacirogada-no, are doqci kana. hacirogada-  
あれ、 八郎瀧の、 あれ どっち かな。 八郎瀧

no doqci-no ho-desitakana. asoko-dewa māgu-  
の どっちの 方でしたかな。 あそこでは ＜マグ

ro-no eqponjagi to kakete desitane.  
ロ(鮓)の 一本焼＞ と かけて でしたね。

U ha-so-gae.  
はあ、 そうかね。

H māguro-no eqponjagi-to kagete usiwakamaru-to  
＜マグロの 一本焼＞と かけて 牛若丸と

tokuka. kore-mo, māguro-no eqponjagi-mo ben-  
解くか。 これも、 マグロの 一本焼も ベン

ke-wa komaru wage-da.  
ケイは 困る わけだ。

N Nda-na.  
そうだな。

H ema benke-nado oeteru uci-wa naedesjo-ne  
今、 ベンケイなど おいてる うちはないでしょうね。

N Nda. toqte nāgedaha. (笑)  
そうだ。 とって 投げてしまった！

H are, ko· kãgo-no tokoro e wara-o zuqpai erede...  
あれ, こう 籠の ところへ 藁を たくさん いれて……

N nda, nda  
そだ, そだ。

H sosite ko· sasu-nomo arusi, tãda ko· wara-o  
そして, こう 刺すのも あるし, ただ こう 藁を

((N) mãpedegae) cjoqto marume-danomo arunzja  
( 曲げてかね) ちょっと まるめたのも あるのでは

naedesuka.  
ないですか。

N nda. kãpoko nãba sosita.  
そだ。 籠が なければ そうした。

R (笑声) nda.  
そうした。

N kãpoko kauagute-node (nedemoか) ko· karagaede  
籠を 買うのでなくて こう からがいで

……sore-demo keqko· sasagteru mono.  
……それでも うまく 刺されている もの。

## 【7】 男鹿地震の話(その一)

録音日時 1967年2月26日

9月3日 臨地検討

録音場所 秋田県男鹿市脇本大倉  
おがし わかもとおくら

話し手

(略号) (氏 名) (性別) (生 年) (職業) (居 住 歴)

N 吉田ナツ 女 明治22年生 農業 脇本だけ

R 安藤リワ ♀ 17年生 ♀

H 北条忠雄 (聞き手 編者)

解説: もう29年になるという男鹿地震の話。その時の模様がこまかに具体的にいきいきと語

られている。「吉ノ爺サマ、オヤッ 婆！地震ダデアトイウシ、ナァンモカモ、ソシテルウチニ、  
グワリ グワリ グワリ ド落ちテシマッテ、ミデルウチニ ソゴノ アノ オンチョノ家 ツブレル  
シ、サァコンド、善助ノ家ツブレダ、オレノ家デハ カタガッテシマッテ アトハァナァンモカン  
モナンネ。」まことに見事な活写である。

H z+i+s+i<sup>N</sup>-wa ẽkucu-kuraẽ-no toki-desita, oba:sa<sup>N</sup>.  
地震は いくつくらいの 時でした, お婆さん。

N z+i+s+i<sup>N</sup>-gaẽ. z+i+s+i<sup>Na</sup> kodosi<sup>-de</sup> nizju·s+i+c+i<sup>neN</sup>-da-gaẽ.  
地震かね。 地震は (今年) 二十七年だかねえ。  
こととして

R kune<sup>N</sup> naru. kune<sup>N</sup> naru.  
(二十)九年に なる。 九年に なる。

N nizju·kune<sup>N</sup>-ni naqtagaẽha.  
二十九年に なったかねえ。

R N.  
うん。

N Ndana. ano dogia mada hidægaqtadæna.  
そうだなあ。 あの ときは また ひどかったなあ。

R ore-no hora z+i+sama,  
オレの, ほら, 爺さま

N nizju·kune<sup>N</sup>-ni naqta  
二十九年に なった?

R Nda, nizju·kune<sup>N</sup>-ni naqta. cione<sup>N</sup>.....  
そうだ, 二十九年に なった。 去年.....

N sjeba, ore-no sabu sjeba nizju·ku-ni naqtagaẽ.  
すると, オレの 三(郎), すると, 二十九に なったかねえ。  
サブ

R ododosi ore, aẽda-mono, nizju·s+i:cika(ẽ)da mono.  
おとし, オレ, あれだもの, 二十七回(忌ナラム)だ もの。

H z+i+s+i<sup>N</sup>-de nakunaqta kata-mo oqta<sup>N</sup>-desu-ka.  
地震で なくなった 方も おったんですか。

N ẽ·N, sore sogo-no soba-no zje<sup>N</sup>nosuke-nonaja  
はい, それ その 側の 善之助のねえ

zĩq cja eN-no-sĩta-ni naqte siNda negæ.  
爺ッチャ 家の下に、 なって 死んだもの(直訳<死んだではない  
か>)

H ha.  
はあ。

R ore-no tonari-da.  
オレの 隣だ。

N cūbureda e·qte nangeN-mo aqtae. ēdeni cūbure-  
つぶれた 家という 何軒も ありました。ひどく つぶれ  
da e·na.  
た 家がねえ。

R Nda. jaqpari ano zĩsiN-de eno mono-minna,  
そだ。 やっぱり あの 地震で 家の 物みな(つぶれ)

cjo·nosyke-no ko-mo siNdaba, futari-mo sannin-  
長之助の 子も 死んだし、 二人も 三人  
mo siNdana.  
も 死んだ。

H eçugoro-nan-desu, ano zikoku-wa.  
いごろなんです、 あの 時刻は。

N furoedaqtana nĩzi-goro-de aqtana.  
震えたのは 二時ごろで あったな。

R Nda-na, orideqte-gara-da mono.  
そうだな、 (田圃へ)降りていってからだ もの。

N orideqte-gara-da mono, nin nĩzi-goro, gōgo-no  
降りていってからだ もの、 二時ごろ、 午後の

nĩzi-goro-kara nĩzigoroni, baqçiri nĩzi-dade.  
二時ごろから、 二時ごろに、 バッチリ 二時だという

wage-mo ne·si, <R a·ja> sore-joka hajæ  
わけも ないし そうだ それよりか 早い

wage-de ne·domo, ora, wagarane·domo māñcu  
わけでも ないけれど、 オラァ はっきりしないけれど、 まず  
(俺)

nĩzi-goro daqtana.  
二時ごろ だったな。

H oba:saN-nado taNbo-ni oraretaNdesuka, niNzi-  
おばあさんなど 田圃に おられたんですか、 二時

goro.  
ごろ。

N are, sore, taNbo-sa ta. ugi-ni eqte aqtana,  
アレ, ソレ, 田圃へ 田を 打ちに 行って あったな、

adari-no mon-daba.  
近所の 人たちは。

R Nda.  
そうだ。

N si-ta-domo ore-no musume-sjæ ko moqtete aqta  
けれど, オレの 娘よ 子 持って いた

mono-na, warasi moqteede aqta mono-sæ sonde,  
ものなあ, フラン(童) 持っていて あった もの, それで,  
(赤ん坊)

H aq, osaN-de,  
アッ お産で

N ~  
R あ。  
はい。

H osaN-de, kodomo-saN mmare-te oqtan-desuka.  
お産で, 子どもさん 生れて おったんですか。

N ~  
R あ。  
はい。

N sorede sono dogi eqsjukan-me-de aqta mono-na.  
それで, その 時 一週間めで あった ものなあ。

R Ndagaæ.  
そうかね。

N un. so. ju. kodo netate, ore-no je-daba hido-  
うん。 そう いう ことが なくても, オレの 家なら, ひど

gu edande aqta mono-na.  
く 傷んで いた ものな。  
いた

R Nda.  
そだ。

N modo-no jedaba kore-jori z#qto oqkigata  
 もとの 家なら これより ずっと 大きかった  
 (今の家)  
 mono. sonde māNç# ko. jo. anbae-ni naqta  
 もの。 それで まず こう いう 場合に なった  
 mono-na. kogo-sa adarine jēne amadare oçide-  
 ものな。 ここへ あだりに 家に 雨垂れが 落ちて  
 (家のここらあたり、分析的表現)  
 ru mono-ŋa mæ-no ho-sa cunomeqte, sanzjagu-mo  
 る ものが 前の 方へ つんのめって、 三尺も  
 mugo-sa cunomeqte, sono amadare oçide aqta  
 向こうへ つのめって、 その 雨垂れが 落ちて いた  
 mono-na. sore-dage kadagaqta monde aqtantega-  
 ものな。 それくらい 傾むいた ものだから、  
 ne jaqto todasita-ne-gæ, cjan to. annakotaba  
 やっと (娘を)出したもの、 ちゃあんと。 あんなことは、  
 hontone nantoga sjeba eNdaga ade negaqta.  
 ほんとに、 何と すれば いいのか アテが なかった。  
 (目当)  
 sore, kondo taehigoja-no kuso kaddmededa  
 それ、 こんど、 堆肥小屋の 基礎 固めていた  
 dogo daqta mono-na. <R u·N> jesi-no zi-sama  
 ところ だった ものね。 うーん 吉(田)の 爺様  
 kite, soe kondo sjemen noqtede kede aqta  
 来て、 それ こんど セメン 塗って 呉れて いた  
 mono-sjæ, ore konda noqgi hide noqgi hide-ha  
 ものねえ、 オレ こんだ 暑い 日で 暑い 日で  
 manma kuqtaba sogo tadedeqte kenega, anmari  
 飯 食ったら そこを 閉てていって 呉れないか、 あまり  
 nogiante ore ma. (ne)hitoneri neraqte so-  
 暑いから、 オレ まあ 一寝入 寝るよって そう  
 ju·si, a·Ndaga sitara ore tadede ega-naqte  
 いうし、 うん そだから それなら オレ 閉てて 行くよって  
 kogo-sa kamesinabeko kageru-bari-ni site  
 ここへ 粥飯鍋 かけるばかりに して

kono kãyi-sa kagede, sosite kura-sa kome  
この 鉤に かけて, そして 倉へ 米

eqpjo. aŋede taŋade aqtedaba, tagæde mo. hi-  
一俵 上げて 持って 歩いていたら, 持って もう 一

togæri egeba e-baride aqta wage-dana. sono  
遍 行けば いいばかりで あった わけだ。 その

dogi, kon-do nani sita mono-na, na-nto jemeni-  
時, こんど, なに した ものなあ, なあんと 家前には,

daba, sore jesa haæqtekuru-do omoqtaba, mme-  
それ 家へ 入って来ようと 思ったら, 梅

no-gi musjo-ni ugogu mono-na. so-siteru uçi-  
の木が 無精に 動く ものな。 そしてる うち

ni, josi-no zisama oja baba zisindadæqte jursi,  
に, 吉の 爺さま 「おや 婆, 地震だ」と いうし,

nanmo kanmo, so-siteru uçi-ni, gwari gwari  
なにも かも, そうしてる うちに, グワリ グワリ

gwari gwari oçide sîmaqte, mideru uçi-ni  
グワリ グワリ 落ちて しまつて, 見ている うちに,

sogo-no ano onçjo-no je cubureda, sa. kon-do  
そこの あの オンチョの 家 つぶれた さあ こんど  
(屋号)

zennosuke-no je cubureda. ore-no jedeba  
善之助の 家 つぶれた。 オレの 家は

kadagaqte sîmate ado-ha nanmo kanmo nanne.  
傾むいて しまつて あともう どうも こうも ならない。

# 【8】 男鹿地震の話 (その二)

録音日時 1967年2月26日

(同年 9月3日 臨地検討)

録音場所 秋田県男鹿市脇本大倉

話し手

(略号) (氏 名) (性別) (生 年) (職業) (居 住 歴)

N 吉田 ナツ 女 明治22年生 農業 脇本 だけ

R 安藤 リワ 〃 〃 17年生 〃 〃

H 北条 忠雄 (聞き手 編者)

解説: [7]につづくもの。テープの都合で一連続のものを[7]と[8]とにわけた。産後一週間目赤ん坊を抱いて寝床にいた娘さんをトダシた母親(今の老婆)の愛情が胸を打つ。＜デハテ(外に出て)死ヌヨリ寝床デ死ンダホーエガッタ＞外に出てもおおあぶなかった激震を語る言葉である。最後の結び、ホントネ(に) アングラ オッカネメニ アウコトモ アルモンダネエガ。トダスは＜出す＞こと。＜取り出す＞から。ダスはこの地帯で共通語のヤル(与える)意味に用いているので、ダスはトダスという。秋田一般はクレルもヤルもともに＜ケル＞である。

N a nde aqqu-mo na nmo naranækute, je-sa haeqte  
歩いて うまく どうも 歩けなくて 家へ 入って

kuro-do omoqtaba, mododaba kue Nna niwa-no  
来ようと 思ったら、 以前は 杭は みんな ニワ(土間)の

haru-sa āpede edaqta mono-na <R Nda>  
梁へ 上げて おいたものなあ そうだ

tara-do. tara sī-zju-mo gōzju-mo a nde āpe-de  
僕と(いっしょに)。 僕 四十も 五十も 編んで あげて

aqta aq-mo maroqkiri oq-i-te simate, je-sa  
あった のも すっかり 落ちて しまって、 家の中へ

haqte koraene-mono-na. <R un> na-sini haqte  
入って こられないものな。 うん。 「なにに 入って

eguqte, ema je cæbureru dogo-da, haqte egu-  
いくってえ、 今 家 つぶれる ところだ、 入って 行く



naqte. oja, oçtjo nededa mono nanto-si te  
な」ってえ。「おや、お千代が 寝ている もの、 なんとかして、

sore-daba eganebana nneqte sogo-gara haqte  
それは 行かなければならない」と いって 入って

kuru-taqte korarene mono-na. <R uN.> so. ju.  
くるといっても こられない ものなあ。 <うん> そう いう

mondadate kondo koqçino ho-no amado-gara  
もんでも こんど こっちの 方の 雨戸から

kondo soe amado-mo konda ko. naqta-ba agara-  
こんど それ 雨戸も こんどは こう になったら 開か

næbæ. <R uN.> sore-de kondo jabusi te so si te  
ないだろ。 <うん> それで こんど 破って そして

nedogo-sa eqte fuqpaqte ki ta monda. sono ko  
寝床へ 行って ひっぱって 来た もんだ。 その 子

hitori dagasjede kondo, sono c janto, konda  
ひとり 抱かせて こんど その ちゃあんと、 こんどは

sora nanboga naqta mondabeka, modo-daba ni-  
それ どれほどに、 なった もんだろか、 もとなら 二

z jueçniçi dogasane monde aqta mono-na.  
十一日(間) (寝床を) 退かさな い もんで あった ものなあ。

<R uN.> kondo nantomono naranesi, soe to dasi-  
<うん> こんどは どうも ならないし、 それを 出し

te kitaba kogo-no oga-no mama mada emadaba  
て 来たら、 ここの 岡の崖(ガケ)が また 今なら

ko. hiroe-domo sono mama zu-qto konda kuzurede  
こう 広いけれど その ガケが ずーっと こんどは 崩れて

ki ta monda. benzjo-do je-do kondo ko. cugu-  
来た もんだ。 便所と 家と こんど こう くつつく

dage unpoguacçha. nanto kantomono, ore sjeba  
くらいに 動くのだよ。 なんとも かんとも、 「オレ すると

dehate kite sinu-andagæqte ju. mono-na.  
出て 来て 死ぬのだから」と いう ものな。

<R. uN.> dehate kite sinu-andaba nedogo-ni  
うん。 「出て 来て 死ぬのなら 寝床に

ede sinda ho egaqta-dæqte so ju'si, sitadomo  
いて 死んだ 方が よかったよ」と そう いうし、 だが、

mānçu mānçu dogo-sa cūrede egeba eN-dero-to  
まず まず どこへ 連れて 行けば よかろうかと

eqtakijæ mānçu ma· konçukæ-no kiso-no naga  
言ったら、 まず まあ 肥塚の 基礎の 中

kadamaqteran tegani kogo-sa cūre-de koe(qte) ...  
固まっているから ここへ つれて 来い(って)……

so·site kondo sono soqkara konda non non  
そうして こんど その そこから こんどは グン グン

non-do hasjede aqte tara go-hjo-mo san-bjo-mo  
グンと 走って 歩いて 僕 五僕も 三僕も

mānçu hagon-de sjeba side nemarasjede side  
まず 運んで、 すると (それを)蹴いて 坐らせ敷いて

nemarasjedataqte māda harusagi-de sābisi,  
坐らせたっても まだ 春先のことで 寒いし、

futon-mo neba nanmo nekute, māda, soe sono  
蒲団も 無いし 何も 無くて また それ、 その

ogu-no ho·gara kondo jesa eqte nemagi moqte  
奥の 方から こんど 家へ 行って 寝巻 持って

kite sosite kondo sogosa futon tāpadeqte-na  
来て そして こんど そこへ 蒲団 持って行ってな

<R. uN.> hitobanqe konda sogo-sa ko dagi,  
うん。 一晩げ こんどは そこへ 子 抱き、

Nde simi-no enda açu kaqtaaçū sodo-no hīja-  
そして 炭の 様な もの 買ったのを 外の 廂

si-sa āyede aqta açu sore Nna magurede kita-  
へ あげて あったの それが みな ころげて 来た

si, ore tāyade aqta kome jesa moqte konede  
し、 オレ 持って 歩いた 米 家へ 持って 来ないで

sodo-ni arusi, hore, konda koqci-gara moqte  
外に あるし、 それ、 こんどは こっちから 持って

(eta) kemesi-nabe jaqtoga tãgade kite sici-re-  
(いった) 粥飯鍋 やっと 持って 来て 七輪

N-do tagade kite soete kondo sodo aqkone ede  
と 持って 来て そして こんど 外、 あそこに いて

maNma taeda wage-ja. <R Ndaga> sosite  
飯 炊いた わけよ。 そうか そして

kondo kamesi nide maNma kwasjede soe mo ha...  
こんど 粥飯 煮て ごはんを 食わせて、 それ もう ハア

maçuri cikagumo narusi, 不明 na. <R uN>  
祭 近くも なるし、 .....なあ。 うん。

tonari-no jegara moraqtari sita açu sosite  
隣の 家から 貰ったり した の、 そして

jade oede aqtaaçu jaçu, kondo ma ma ha  
焼いて 置いて あったの、 こんど まあ まあ ハア

naniga nusundo midæni site koqci-gara mawaqte  
まるで何か 盗人 みたいに して こっちから 廻って

ete kondo todana-gara tãgante aqte ni-de  
行って、 こんど 戸棚から 持って 歩いて 煮て

maNma sosite kondo maNma kwasjede, hitobange  
ごはん そして こんど ごはんを 食わせて、 一晩げ

soni ede sono nanda êndo ni gorogaqte erutata-  
そこに いて、 その なんだ、 井戸が 濁って いても、

te êndogara mãnçu ma mĩnzũ kunde maNma ta-  
井戸から まず まあ 水を 汲んで ごはん 炊

de jagimesi-nikite, maNma tade jagimesi-niki-  
いて 焼飯を握って ごはん 炊いて 焼飯握って、

te, ciqciæ nabeko-dandamono-na. <R uN>  
小さい 鍋コなのだものなあ。 うん。

site, soe kondo nna santo nanto sitaqte  
そして、 それ、 こんど みんな 産人(なんかから) なんと したって  
(皆) さん

mura<sup>ç</sup>j<sup>u</sup>-no mono kurubæ. <R Nta> na. nanto  
村中の 人が くるだろ そうだ なあ。 「どう

sita, nanto sitaqte sono nanno kuru mono.  
した どう した』といって その なんの、 くる もの。

sjo<sup>n</sup>bo-gada-gara mura-no hitogada nna santo  
消防がたから 村の 人たち みんな 産人

nanto sitate kite kerus<sup>i</sup>, sore ma<sup>ç</sup>u santo-mo  
何と したって 来て 呉れるし、 それ まず 産人も

nanmo e-ante jagimes<sup>i</sup>, keqte. nan<sup>ç</sup>ju:-gæri  
何も いい(無事だ)から 焼飯 食えっというわけだ。何十遍(となく)

joqta monda <R Nda.> nan<sup>ç</sup>jugæri-demo joru  
揺った もんだ。 そうだ。 何十遍でも 揺る

monda monona <R na·nto site.> nde sjeba æ  
もんだ ものなあ。 なあんと して。 それで、 すると、 あれ

he·ba hitoban<sup>de</sup>-ni san<sup>ç</sup>ju·nanbo-gæri-daba joqta-  
すると、 一晩げに 三十何遍は 揺った

takena <R N.>  
けなあ。 んー。

hontone andara oqkanæmeni aukodo-mo arumona-  
ほんとうに あんな 恐ろしい目に あうことも あるもん

danega.  
ではないかね。

## 【9】お 風 の 対 話

録音日時 1967年2月26日

録音場所 秋田県男鹿市脇本大倉  
おがしわきもとおおくら

話し手

(略号)	(氏 名)	(性別)	(生 年)	(職業)	(居 住 歴)
N	吉田 ナツ	女	明治22年生	農業	脇本だけ
U	吉田 運蔵	男	〃 16年生	〃	〃
K	菊地 正信			(聞き手 高校教諭)	
H	北条 忠雄			(聞き手 編 者)	

解説：録音中にお昼になり、昼食のご馳走にあずかった。

これは、その昼食中のなまの対話である。実はこの対話録音を特に注目したのは、話中に出る  
<z+N̄dis+teranaNdera> という語句—表現が見えるからである。秋田のよそなら普通  
<z+N̄dis+terana~adaβe><z+N̄dis+terana~adasuβe> などなるところ。

N gohan nobede  
ご飯を だして(ください)

K ija takusan ado korede zju·bun-desu  
いや、たくさん。 もう、これで 十分です。

U juqkuri agaqtē  
ゆっくり 上って(ください)。

N sjeNsje sore z+N̄di s+terujodanaNdera  
先生！ それ 遠慮 しているのでしょう。

K eq ↗  
えっ ↗

N z+N̄di s+terujodanaNdera  
遠慮 しているのだらうてえ。

K z+N̄di s+tera ↗ nante imidesuka  
ジギ シテラ ↗ 何という 意味ですか。

N eNrjo-s+teru-de ju: kodo  
遠慮してると いう こと。

K nanno eNrjo-site nai zju·bun onaga iqpæda.  
何の 遠慮して ない。 十分。 おなか いっぱい。

sense. ano z+N̄di-s+teraqtē eNrjositeruqtē ju-  
先生 あの ジギシテルって 遠慮してる こと いい

suka. so. ju·subega.  
ますか。 そう いうでしょうか。

H e. e: ju·desune.  
え えー 言いますね。

K ora hāzimedē kida kore  
オラァ はじめて 聞いた、これ。

N agireda mondane.  
あきれた もんだねえ。

【10】 おじいさんとおばあさんの<sup>のど</sup>喉コ

録音日時 1967年2月26日

録音場所 秋田県男鹿市脇本大倉<sup>おがしわきもとおおくら</sup>

話し手

(略号) (氏 名) (性別) (生 年) (職業) (居 住 歴)

U 吉田 運蔵 男 明治16年生 農業 脇本 だけ

N 吉田 ナツ 女 〃 22年生 〃 〃

解説：おじいさんの唄は＜脇本は火事で二度焼けたが三度焼けたらそれこそどうにもならぬ＞という趣旨だが、どういう時謡うのか聞きもらした。お婆さんのは、臼引歌のよし。じいさんのものはそんな時のものか。

(イ) おじいさんの唄

U wagimodo-wa nan-no baçu-jara nido jageda.  
脇本は 何の 罰やら 二度 焼けた。

sando jageda, sando jagedara nodadzune-dja.  
三度 焼けた, 三度 焼けたら 容易でない。

a: jagedara sando jagedara nodadzune-dja.  
あー 焼けたら 三度 焼けたら たいへんだ。

ja: do na:  
ヤート ナー

(ロ) おばあさんの唄

N sâbukaze-no gorinnãðane-no: (tona) edosusugi  
寒風の 五輪長峯の (とな) 糸薄<sup>アサ</sup>

edosusugi ũma-ni cakedomo jura jura-do:  
糸すすぎ 馬に 付けても ゆら ゆらと

(cūzugane anda) masaga cūke-demo jura jura-do  
 ( つづかないのだ ) 馬に つけても ゆら ゆらと  
 —自分の声のこと—

ja:to na:koju. uda.da.  
 ヤート ナー こういう 歌だ。

## 【11】 餅のかぞえ歌

録音日時 1967年2月26日  
 録音場所 秋田県男鹿市脇本大倉 ＊がしわきもとがくら

話し手

(略号) (氏 名) (性別) (生 年) (職業) (居 住 歴)  
 N 吉田 ナツ 女 明治22年生 農業 脇本 だけ

- 解説: 1. フトツ-フグダモチ 6. ムツツ-ミヤゲモチ  
 2. フタツ-ナリダ・モチ 7. ナナツ-ジョーニモチ  
 3. ミツツ-ミソツケ-タンボモチ 8. ヤツツ-カザリモチ  
 4. ヨツツ-アンヅキモチ 9. ココノツ-オガノモチ  
 5. イツツ-クスリモチ 10. トオー-センキモチ

どうもモチゴメをついた、本物のモチでないのもありそうだ。以上このままでは続かないものがあるが、それはここでは橋わたしのことばを省いたから。例えば、フタツ フウフノ ナリダモチというように。

N futoçɥ fugureda fuguda-moçɥ. futaqɥ fu-fu-no  
 一つ 膨れた ふくだ餅 二つつ 夫婦の  
 narida-moçɥ. miqɥ miso-cuke tanpo-moçɥdaɛ.  
 なりた餅 三つつ 味噌付け たんぽ餅(だよ)  
 jōqɥ jōɥore-da ādzugimoçɥ. ɛçɥ ɛsjādo-no  
 四つつ 汚れた 小豆餅 五つつ 医者殿の  
 kusɥrimoçɥ muqɥ musume-no mijāɛ-moçɥ.  
 くすり餅 六つつ 娘の みやげ餅  
 nanaçɥ nanakusa zjo-nimoçɥ. jaqɥ jasugi-no  
 七つ 七草 雑煮餅 八つ 屋敷の  
 k̄azari-moçɥ. kogonoçɥ konojēno oganomoçɥ.  
 飾り餅 九つ この家の おがの餅

to-ni tosorino senkimoçt, nāda.  
 十に 年寄りの せんき餅, なんだ。

## 【12】 若い時の話 ちょっぴり

—夫婦仲よくかせいだこと—

録音日時 1967年2月26日

録音場所 秋田県男鹿市脇本大倉  
おがしわきもとのおくら

話し手

(略号) (氏名) (性別) (生 年) (職業) (居 住 歴)

N 吉田ナツ 女 明治22年生 農業 脇本だけ

解説：題名の如くしかり。

しかし、ちょっと。田へも山へも＜働きにゆく＞のをすべてオ Ril といい、帰宅—仕事から帰ることをアガルということ、この短い中にあらわれている。

N ore-daba jama-sa oride eguqte jueba, je-no  
 俺は 山へ おりて いくと いえば、 家の

naga kadaçake-de, soqte to tade-de to sime-de  
 中を かたつけて そして 戸を たてて 戸を 締めて

eqte, je-sa kite manma-no sitagu site kuta  
 いって 家へ 来て 飯の 支度を して 食った

mōnda-mono, wakæ uçt-na. sjeba, ore-no dz+qcja  
 ものだもの、 若い うち。 すると、 うちの 爺は

mada agaqt-e-gara kondo tamawari guruqto site  
 また (田から) 上ってから 今度 田廻り グルッと して

sosite kuru-anda mono.  
 そして くるのだ もの。

K hahā. tan tamawari site kuru wage-ne.  
 ハハァ タン 田廻り して くる わけねえ。



N    s o s i t e    j e s a    k i t e    m a n m a    k u a n d a - m o n o - n a .    s o n o .  
 そして            家へ            来て            飯            食うのなものなあ。            その

t a m e - n i    d o q c i - m o    e s o g a s i    a c u - d a    m o n o - n a .  
 ために            どちらも            いそがしい            のだ            ものなあ。

# 【13】 や づ の め

— 一つの花に実が八つなる梅の話コ —

録音日時 1967年2月26日

録音場所 秋田県男鹿市脇本大倉  
 吉田運蔵 宅

話し手

(略号) (氏 名) (性別) (生 年) (職業) (居 住 歴)

N    吉田 ナツ    女    明治 22 年生    農 業    脇 本 だ け

R    安 藤 リ ワ    “    “ 17 年生    “    “

K    菊 地 正 信            (聞き手 高校教諭)

解説：一つの花で実が八つなる梅—— オラ（俺）食ったこともないし、なってらどごみたこともないがたしかにあると信じている話。話し手のアルデゲッ（←アルドガエ〔arudogaē〕）に対して聞き手が＜アルデショウ＞と理解したのに、＜アルド、ハッキリアルアンダ＞と力を張って言っているのがコトバの上でおもしろい。ガエに対する聞き手の誤解である。

N    s o r e - g a r a    s o g o - n o    s a d o - s a n - n o    j i e - n i - m o    ũ m e b a j a -  
 それから            そこの            佐藤さんの            家にも            梅林

s i    a q t a s u n a .    e m a - d e m o    k a s i m a s a m a q t e .    e w a g u r a n o  
 ありましたね。            今でも            鹿島様ってえ            岩倉の

h a z i z i r o s a m a - s a    e g e - b a    k a s i m a s a m a - n o    s o b a - s a  
 八次郎様へ            行けば            鹿島様の            側に

e g e b a    j a c u n o m e q t e    a r u d e g a e ,    o r e d a b a    e q t e m i d a  
 行けば            ヤツノメって            あるとよ、            オレなら            行って みた

k o d o - m o    n e d o m o .    h a n a    f u t o c u s a    j a c u    n a r u d o .  
 ことも            ないけれど、            花            一つに            八つ            なると。

K ja-cu-fu-sa-no-meqtene  
ヤーツフーサーノメってね。

N Nda. jaçu-no-me, sore-daba umeçuke-ni cagedemo  
そうだ。 ヤツノメ, それは 梅漬に 漬けても

kawari neqte-anta.  
変りは ないとだと。

R honda-ja.  
そうだよ。

K jacunomeqte oisiẽ mondesjo-ne. Nmæ mon-dasu-  
ヤツノメって おいしい もんでしょうね。 うまい もんしょう

benã.  
なあ。

N nantoga nandaga, ora kuqde mida kodo-mo ne-si  
どういうものか, 俺 食って みた ことも ないし

naqtera dogo mida kodo-mo ne. ....no hõbano.  
なっている ところを みた ことも ない。 不明 の そばの

kasimasama-no hõnba-no jacunomeqte ju. ki  
鹿島様の そばの ヤツノメって いう 木

eqpo do, mugasi-gara-no ki.  
一本 と, 昔からの 木。

R .....

N .....aẽ, m̃açũ kasimasama-no ki. o:mugasĩ-gara  
.....あい, まず 鹿島様の 木。 大昔から

aruantagaẽ, jacũfusanoũme-daqte ju. mono.  
あるのだよ, ヤツフサノウメだと いう もの。

sono ũme aru-anda.  
その 梅 あるのだ。

K arancjageqte ju. fu-ni ko. ju-N-desu-ne, aru-  
アランチャグエって いう ふうに こう いうんですね, ある

desjo-neqtene.  
でしょうねえっていうことね。

N aru-do. haqkiri aruanda.  
 あると。 はっきり あるのだ。

K ndasuna. arancjageqte to-ju-bae-daba arude-  
 そうですね。 アランチャゲエという場合は、 <あるで  
 sjo.-dasbae.  
 しょう>でしょう。

R honda.  
 そうだ。

K arudaro-qte-ne, ju. imi-ne, arudoqteba haqkiri  
 あるだろうってね、 いう 意味ね、 <あるど>っていえば はっきり  
 aru wage-da.  
 ある わけだ。

N haqkiri aru-anda.  
 はっきり あるのだ。

# 【14】 繁 次 郎 の 話

録音日時 1967年2月26日  
 録音場所 秋田県男鹿市脇本大倉  
 吉田運蔵氏宅

話し手

(略号) (氏 名) (性別) (生 年) (職業) (居 住 歴)  
 N 吉田ナツ 女 明治22年生 農業 脇本だけ

解説：大分のキッチョムみたいなものがどこにもある。いわば日本の伊曾保氏である。ここに四  
 つ話してあるがあまりたいしたものではない。

① 鯨は川に ② 紅餅 ③ 山さ行ってマギきり ④ 若勢ぶり

① 鯨は川に

N s̃iÑðeziro, s̃iÑðeziro, baba-do futari ede aq-  
 繁次郎、 繁次郎、 婆と 二人で いて あっ



so. eqta wage-da.  
そう 言った わけだ。

sita-ba, e. e. asama-ni zuqpari cude kwasjeru.  
そしたら, ええ ええ 朝に いっぱい ついて 食わせる。

sjogubeni kaqte ke, fudeko-do. baba-ne sjo-  
食紅 買って こい, 筆ッコと。 婆に 食

guben-do fude eqpo kawasje-da wage-da. sos-  
紅と 筆 一本と 買わせた わけだ。 そし

te, kondo togasi-te kondo a. jo. futobande-  
て, こんど (食紅を)融かして, こんど アァ ヨォ 一晩げ

no uci-ni kondo hositeaqta kondo N-na sjogu-  
の うちに こんど 乾してあった こんど みんな 食

benko cuge-de jaqta wage-da, un, un, sono  
紅コ つけて やった わけだ。 うん うん, その

tonari-no taera-no <R un>-sjæ moçiqko-sa.  
となりの 平の うん 餅ッコに

na·Nto asama-ni ogitaba-sjæ mamande-sjæ c-  
なあと 朝また 起きたら さながら 血

cudamidæ-ni naqteru wage-da, agagu naqte-na  
が付いたみたいに なってる わけだ, 赤く なってなあ

<R honda> na·Nto ore-no moçi-sa osorosine  
そうだ。 なあと オレの 餅に おそろしい

mono cudedaqte mini egeba N-na maqka-ni naq-  
もの ついてだって 見に 行くと, みんな 真赤に なっ

teru wage-da. nanno tonan-no karapojami-sa  
てる わけだ。 何の, 隣の カラボヤミに  
(怠け者)

dasite jareqte wage-de nasite kwaeru mon-  
呉れて やれって わけで, なんて 食われる もの

daqte tonari-no karatejami-sa moqte egeqte,  
かとして 隣の 怠け者に 持って 行って

na·Nto eqiniçi-ni nando-mo cūda moçi nanda-ga,  
なあと 一日に 何度も ついた 餅 なのだが,

futari-mo sannin-mo site c#da moct, deroqto  
二人も 三人も して ついた 餅, デロリと

moraqte hitofuju agi-sita-dona. (笑)  
貰って 一冬 (食って) 厭き厭きしたとき。

③ 山ざ行ってマギきり

N soregara kondo-sjæ ma. s̃iðeziro ko-site-daqte  
それから こんど 繁次郎 こうしていても

jazjaganæntegane jadodie. hito jadowasje-de.  
だめだから 雇って いい 人 雇わせて

jaqta-do. sitaba kondo, s̃iðeziro, cjo magi-  
やったと。 したら こんど 繁次郎, 今日 薪切

kiri-da-dæ. jama-sa eqte magi hora, jogama-wa  
りだよ 山へ 行って 薪, ほら, 四釜は

taganænantegane, kiqtekoeqte. jo-si-do (o)mo-  
焚かねばならぬから 切って来いってえ。 よーしと 思

te eta wage-sjæ. sita-ba kondo, futa-gama  
って いた わけよ。 したら, こんど, 二釜

kiqte kondo-sjæ o.furi-kesi-te nededa wage-da.  
切って こんど 大きな顔して 寝ていた わけだ,

jama-naga-de-na. sogode kondo, eqte midaba-sjæ  
山中でな。 そこで, こんど, 行って 見たら,

futagama-jori kiqte ne wage-da. s̃iðeziro,  
二釜しか 切って ない わけだ。 繁次郎?

kore sjeba pandaqte futa-gama kiqtesjeba  
これ, すると, 何だって 二釜 切って

nede, jo-gama kiru hāzuni site-sjæ edanega-  
寝て! 四釜 切る 筈に して いたではないか

do. nani saberuqtega. koqc-i-no kape-no ho-sa  
と。 なに しゃべるのか。 こっちの 蔭の 方へ

kite mire-dæ. koqc-i-no ho-no kata-kogoc-i sjeba  
来て みる。 こっちの 方の 片木口, すると,

kiqta-andaqte na, koqci mide futa-gama areba,  
切ったのだよ           なあ、こっち     みて       二釜           あれば、

koqci-no ho· mide-mo futa-gama areba, jo·gama-  
こっちの           方     みても           二釜           あれば       四釜

daaqtado. sjebanda kanzjo-dadomona. kada-  
なのだと。           そういえばなるほど    そういう勘定だものなあ。     片

kogoci dare kiqta-anda, ore kiqta-anda, sje-  
木口           誰           切ったのだ、           オレが   切ったのだ、       する

ba sore jogama-ni naqte si-maqteru wageda.  
と、それ       四釜に           なって       しまってる       わけだ。

④ 若勢ぶり

sore-gara kondo si-deziro-dogo kondo wagazje-  
それから           こんど       繁次郎を           今度       <若い衆>

ni tanomo-ni eqta wage-da. egu toqte ema  
に   頼みに           行った   わけだ。       よく   取って   今

nanbo nanbo-ni tanomaenegaqtaba e· e-qte, sita-  
どれほどに       頼まれないかといったら、   いい、いいって、   そした

ba-sjæ ore-sjæ nan-demo si-godo-daba surusi-  
ら       オレは           何でも       仕事は           するし、

sjæ wage-da.  
わけだ。

sitaba kondo-sjæ oenojonda mono-sjæ nandemo-  
したら、       こんど       オレのような       者、           何でも

sjæ kwannon sama-no hidake-sjæ ore-dogo jast-  
観音様の           日は           オレを           休

masjede kereqte. kwannon-samaqtaqte ecinici-  
ませて       くれてえ。       観音様といっても       一日

bari nanne-do omote, ae ae e-dæ eqtakodone.  
おれにしか   ならないと       思って       アエ   アエ   いいよ   と言ったことよ。

si-deziro nanisaruqteba cjo-wa eciban-no kwa-  
繁次郎           なにするっていうと、       今日は       一番の       観

nnoN-sama-daqte wage-dana. as+ta-ni nareba  
音様だという わけだな。 明日に となると

mada-sjæ s+Deziro nanisurugeqteba cjo-wa  
また 繁次郎 なにするかという 今日

niban-no kwannnoN-sama-da, asaqte-ni nareba  
二番の 観音様だ、 明後日に となると

cjo sanbanno kwannnoN-sama-da qte wage-da.  
今日 三番の 観音様だという わけだ。

kondo-sjæ na·Nto taëz+ sanban aru wage-da,  
こんど なんと 絶えず 三番 ある わけだ、

kwannnoN-sama-na. sje-ba cugi-ni-sjæ sanzju-  
観音様が。 すると、 次に 三十

niç+ jori ore jas+nda oboe nedo. ado-no miq-  
日より オレ 休んだ 覚えが ないと。 あとの 三

ka sjeba nanto site kureruandado. soede  
日、 すると、 なんと して くれるのだと。 それで

kondo ado-no miqka-buri-mo mada-sjæ toN-neba  
こんど あとの 三日ぶんも また 取らねば

naranæandadona. jaqpa sanzjusanban-no kannon-  
ならないのだとよ。 やっぱり 三十三番の 観音

sama. soede kondo o jagada-mo na·Nmo mageda-do.  
様 それで こんど 親方も 何もみな 負けたと。

ęç+nneN-zju nesje-de kwasje-de sosite miqkad-  
一年中 寝せて 食わせて そして 三日づ

z+ç+ni s+ari aru wage-da. soede s+Deziro-ni  
つに 下がり ある わけだ。 それで 繁次郎に

kate totemo awanedona.  
かかって とっても だれもだめだと。



【15】 昔 話

録音日時 1967年2月26日

録音場所 秋田県男鹿市脇本大倉  
吉田運蔵氏宅

話し手

(略号)	(氏 名)	(性別)	(生 年)	(職業)	(居 住 歴)
N	吉田 ナツ	女	明治22年生	農業	脇本だけ
U	吉田 運蔵	男	〃 16年生	〃	〃 (聞き手)
S	吉田家主婦	女	40才くらい	〃	〃 ( 〃 )
K	菊地 正信	男		高校教諭	

① 松かさ三升で炊事 —— 嫁の資格試験 ——

解説：マツカサ(松毡)は方言で〔madz-w f-w ɔrɪ〕マツフングリ だがここでは共通語のマツカサでみえる。ムガンはオナゴがヨケエ居たタメニ ナンダラ嫁デモ選ブコトガデキタではじまる。ここではその嫁の能力試験で、マツカサ三升を与えてゴハンを炊かせ、オツゲ(お汁)をつくらせ、そしてユコ(湯)までわかさせようとするのである。三升くらいでマンマ オツケから湯コまでとは大変と一つつつ——最後までマツカサがあるようにと——くべてゆくのが中以下の頭脳の持主、マンマが煮えないうちにすでにマツカサがなくなってしまう。嫁入り資格十分と判定される上脳は果して如何なる方法を以て処置したか。

N mugasɪbanasɪ kɔdaroːga .  
昔 話 語ろうか。

aru mugasɪ ne-da wage-sjæ . hɪ torɪmusɜko  
ある 昔に、 という わけよ。 ひとり息子が

jome morau-ne-da wagesja-na . na.Nto modo-daba  
嫁を 貰うことに、 というわけよなあ。 なぁんと 昔は

ema-jorɪ-sjæ onãŋo joge. ɛda tamenɪ nandara  
今より 女が たくさん いた ために どんな

jome-demo ɛran-de morau-ni ɛgata wage-da .  
(いい) 嫁でも 選んで もらう{に 良かった} わけだ。  
{ことが できた}

Nde-sjæ oreno ɛsa kuru jome-sjæ madzɜkasa  
それで、 俺の 家へ 来る 嫁よ、 まつかさ(松毡)

saNzjo-ni mama-do odzʉge-do juko-do, so.  
三升で 飯と お汁と お湯と そう

tagu-en-da-sjæ jome-de neba morawa-ne-do.  
たぐような 嫁で なければ もらわないと、

soe-de kondo tadekanban sãde-da wage-da.  
それで 今度 立看板を 下げた わけだ。

so.ju-koqte, konda-sjæ, ore-midæna monozugi-da  
そういうことで、 今度、 オレ(俺)みたいな 物好きな

monde aqta-be-sja, sore-daba ore eguqte kj-ta  
もので あったんだろう、 それなら オレ 行くといつて 来た

wage-da. m̃anzʉ-sjæ kanban-ni joqte kjta-do.  
わけだ。 まず 看板に よつて 来た(という)。

s̃itara-sjæ, s̃iken-s̃i-te mireqte, madzʉkasa  
それなら 試験して みろつというわけ 松かさを

saNzjo. ʉzʉge-de-sjæ manma taga-sje-de odzʉge  
三升 預けて(与えて)、 飯を 炊かせて お汁を

nira-sje-de so.s̃i-te-sjæ juqko-mo wagaʉ-anda  
煮させて そうして お湯も わかすという

wage-da-na. sore degire-ba-sjæ, m̃andzʉ jo-me-  
わけだな。 それが できれば、 まず 嫁

qko-ni moraude kodoni naqta wage-da. soēde  
に もらうという ことに なつた わけだ。 それで

kondo ma. ta-ga-sje-da-ba, m̃andzʉ saesjo-ni  
今度 まあ たかせたら、 まず 最初に

futaqçʉ miqçʉ futaqçʉ miqçʉqte m̃andzʉ-sjæ  
二つ 三つ 二つ 三つといつて まず

kũbe-de jaq-ta-ba-sjæ saNzjo-no jadzʉ-ni-sjæ  
くべて やつたら 三升の もの(松かざ)で

manma jaqtoga-jori nidada-ne wage-da. soēnde  
飯が やつとがより(やつとしか) 煮立たない わけだ。 それで、

m̃andzʉ sore ragudaç-de aqta-do-gaç. Nde. ni-  
まず それ 落第で あつたとよ。 それで、 二

banme-ni-sjæ kɪta hɪto-sjæ ore sɪtarasjæ  
 番目に 来た 人よ オレが それなら

jaqte miruqte mada kɪta hɪto ɛda wage-da.  
 やって みようといって 又 来た 人 い(居)た わけだ。

sɪtadomo mada madzɯkasa sanzjo ʌzɯge-de-sjæ  
 だが、 また 松かさを 三升 預けて

sono manma taga-sje-de mida wage-sjæ. sogode  
 その 飯を たかせて みた わけよ。 そこで

sono hitoqcɯ-dzɯcɯ-sjæ kũbe-da-wage-da. hɪtoqcɯ-  
 その 一つづつ くべたわけだ。 一つ

dzɯcɯ kũbe-dara kondo-sjæ ore ha go.kagu  
 づつ くべたら 今度 オレは もう 合格

sɯnmɔn-dado omoqte-sjæ hitoqcɯ-dzɯcɯ kũbe-da  
 するもんだと 思っ 一つづつ くべた

wage-da. sogode sore-mo madasjæ manma nida-  
 わけだ。 そこで それも また 飯が 煮立

da-ne-de ha ne.sɪte simaqta wage-sjæ. nanto  
 たないで (松かさを)なくして しまった わけよ。 なんと

sitaqte jazjagane, mada sore-mo ragudae-da  
 しても 駄目だ、 また それも 落第という

wage-da. sore-gara-sjæ ɛ.kage.nda hanegæri  
 わけだ。 それから いい加減な 跳ね返り(おてんば)娘が

mada kida wage-sjæ. ore sɪtara jaqte miruq-  
 また 来た わけよ。 オレ、 それなら やって みようと

te sɪtara mada madzɯkasa sanzjo ʌndzɯge-de-  
 いって、そしたら また 松かさを 三升 預け

sjæ sɪken sasjeda wage-da. nanno.kodone,  
 て 試験を させた わけだ。 なんの ことない

ɛginari boqkori sanzjo kũbe-de.soreni hi  
 いきなり ボッコリと 三升 くべて、 それに 火を

cɯke-da wage-da. do.do.do nidaqte simata  
 つけた わけだ。 フォードと 煮立って しまった

wagesjæ, sanzjo-no ma., hitokûbe-de. kondo  
わけよ, その三升の 松かさが, そのくべで。 今度  
もと

nîbanme-ni kono kiwa-sa ko.sæ hanedeqtajadz  
二番目に この 際へ このように 跳ねていったやつ  
(手真似) (手真似)

konda adzube-de, sositaba-sjæ odzageqko ni-  
(松かさ)をこんど 集めて, そしたら お汁が 煮

daqta wage-da. odzageqko nidaq-ta-ba jaqto  
立った わけだ。 お汁が 煮立ったら ヤッと(威勢よく)

orosite, sono ogiqko-sa-sjæ cjaðamako cjiq-  
おろして, その オキ(燗)へ 茶釜を おしつ

uke-da wage-da. sore-de manzjogu sita-dona.  
けた わけだ。 それで 満足 したということだ。

n-te, anmari ke-cijaru-mo mada e. kodode  
それで, あんまり ケチ(吝嗇)するのも また いい ことでは

ne-an-da wageda. sogo-sjæ adama-no mondaen-  
ないという わけだ。 そこはよ 頭の 問題

de-na. soe-de, sono hito mandzu sogo-no  
でな。 それで, その 人(娘) まず その

e-sa jomeko-ni naqte osamaqta-do-jona hana-  
家へ 嫁に なって おさまったという 話

si-da. sore-de toqpinparari.....  
だ de... それで トッピンバラリ.....  
で.....

## ② <やぐわん>と<めくされ>それに<しらみたがり>の話

解説: ちょっと上品めいた話ではないが, 昔話の世界なら<めくされ><しらみたがり>などありふれたことでどこにもみられたし, 自分たちにもあったもの。但し<やぐわん>だけは古今東西を通じて遍在する。この三人がナンボカユイ(痒)タッテ カガネッコ, ナンボ 涙デタタテ コシネッコ をしようと約束する。コシネッコはコスラネッコである。ヤグワンとシラミタガリはかゆくて死ぬほど, めくされはメクソと涙でこれもそれほど, さて三人この難関をいかに切りぬけたかというのがこの昔話のネライ。

N aru mugasɪ-ne tomodaci-qko sannin asɛnda  
ある 昔に 友達 三人 遊んだ

wage-sjæ. sono dogi-sjæ futori jagwan-de,  
わけよ。 その 時 ひとり は ヤガン(禿頭)で、  
(薬罐頭)

futori sirami-tagari-de, futori mekusare-de  
ひとり は シラミタガリで、 ひとり は メクサレで  
(虱集) (目腐)

aqta-dogaɛ sannin-dzɛɛ asɛndeda wage-da.  
あったとよ。 三人いっしょに 遊んでいた わけだ。

soregara kondo-sjæ futari (言いなおして) sannin  
それがら 今度 二人 三人

asɛn-de-sjæ ɛqsjokeme kædo-naga aruɛte-daba,  
遊んで 一所懸命に 街道なかを 歩いていたら、

ja ja cjo-sjæ nanbo kætaqte-kaganeqko jaro-  
やあ やあ 今日よ どんなに カユクテモカガネエツコ やろ  
(痒)

ga(qte). aɛ aɛ, sitara-sjæ omæ mada nanbo  
うか(って)。 うん、うん、 そしたら お前 また どんなに

managu-sa namida de-de kitabatate kosineqko  
マナコ(眼)に 涙が 出て 来たとして コスラネツコ

jaruga(qte). sje-ba ore-mo jagwan kaganeqte  
やるが(って)。 そしたら オレも ヤグワン カガネエって

sannin-site kime-da wage-da. soko-de kondo  
三人で(このように) きめた わけだ。 そこで 今度

nanmo-kanmo sirami-tagari kæku-te sinu-ɛnda  
無精に シラミタガリは 痒くて 死ぬような

wage-sjæ. anmari agirede konda-sjæ ko-ɛ (言い  
わけよ。 あまりの ことに {あきれて  
どうしようもなく} 今度 (ちょうど)

なおして) ɛ: anbaɛ-no kawaqko-ɛnda dogo-sa ɛqta  
いい ぐあいの 川のような ところへ 行った

dogi kamo ɛppa ton-de ki-ta wage-da. oja!  
とき 鴨 一羽 飛んで 来た わけだ。 オヤ

oja! oja! oja! aqko-sa kamo ɛppa ton-de  
オヤ オヤ オヤ、 あそこへ 鴨 一羽 飛んで

ki-ta-da ja . ano kamo, gozjo gozjo gozjo go-  
来たよ。 あの 鴨, ゴジョ ゴジョ ゴジョ ゴ

zjo gozjo gozjoqte, naNmo-kaNmo gozjo gozjo  
ジョ ゴジョ ゴジョって, ただもう ゴジョ ゴジョ

gozjo qte hiqsi-de kæde si-maqta wage-da.  
ゴジョ って 必死で かいで しまった わけだ。

soede sirami-tagari kæ dogo minna kaede  
それで シラミタガリは 痒い ところを すっかり 掻いて

si-maqta wage-sjæ. sogode kondo-sjæ jagwan da  
しまった わけよ。 そこで 今度 ヤグワン の

wage-sjæ. si-tara, ore-mo jaro-ga-do omote,  
わけよ。 そしたら オレも やろうかと 思って,

konda sono dogi ko:site gwandzuri cukame-ba  
こんど, その 時 こうして グワンヅリ つかめば  
(手真似)

egaqtadeni, adama gwandzuri cukame-ba egaqta  
いかったのに, 頭を グワンヅリと つかめば いかった

deniqte ko: jaqta wage-da. nanbo-gæri-mo  
のにあって こう やった わけだ。 何遍も  
(手真似)

so jaqtara sore-mo mada jagwan kande-sæ  
そう やったら, それも また ヤグワンを 掻いて

manzjogu-si-ta wage-da. soregara mekusare  
満足した わけだ。 それがら, メクサレは,

konda-sjæ nanto surw, ore-mo mage-de erare-  
こんど, 何と する, オレも 負けては いられ

næ-do omote konda kandaeda wage-da. sono  
ないと 思って こんど 考えた わけだ。 その

dogi teqpo-demo are-ba egaqta-domo-na, doqto  
とき 鉄砲でも あれば よかったどもなも, ドット

doqto udeba egaqtani. <R. 低声で, managu kosurw-  
ドット 打でば よかったのに それでマナグを こする

ac > sono udzi-ni mekusodo deroqto odosi-te,  
のだ > その うちに 目糞 デロッと(すっかり) おとして

(笑大きくこのところ不分明) sorede sannin-nāḍara kondo-  
(しまったわけだ)。 それで 三人ながら (全部) こんど

sjæ kæ dogo-mo kæ-da-si, suqkari degi-de-sjæ  
痒い ところも 掻いたし、 すっかり やってしまって

manzjogu sitadogaę.  
満足 したとよ。

③ 狐とむじなとを化かした話

(1967年9月3日 臨地検討)

解説：詳しくいえば＜博勞が狐とむじなとをうまくばかして大もうけした話＞である。よく流布されている話で、話そのものは別に珍しいものではない。カラダを撫でて、コゴノ アダリ アンマリ 肉 タラネデアッテ 撫デレバ[sjæ マダ コンダ 好エ アンバエニ ナルワゲダ など なかなか話者の巧みさを物語っている。

N d z i q c j a d a m a q t e r e - j o .  
爺<sup>おぢ</sup>チャ だまってれよ。

U o e .  
オエ、(うん)。

N k i c u n e - d o m ū z i n a - d o - s j æ n i n g e n - n i d a m a g a s a -  
狐と むじなと 人間に だまさ

r e d a - d o . k i c u n e - d o m ū z i n a - d o , a r e - s j æ , a r u  
れたと。 狐と むじなと あれ、 ある

b a g u r o j a m a - s a - s j æ k o e n e w a g e d e k i d a b a ,  
博勞 山へ こういうように(な) わけて 聞いたら、

k i c u n e - d o m ū z i n a - d o k o n d o h a n a s i s i t e s o -  
狐と むじなと こんど 話 して 相

d a n s i t e - d a w a g e - d a . n a n t o m u s i . o m æ a s i t a  
談 していた わけだ。 なんと ムジナよ、 お前 明日

ū m a - n i n a r e d e j a . o r e d o g o s o g o - n o s o e s a g a -  
馬に なれよ。 オレ どこ そのの それ 酒

j a - n i n a n b o t a g æ - t e m o e : ū m a - d a b a k a u d e  
屋に どれほど 高くても よい 馬なら 買うという

hanasidaN tegane, temæN-dogo uqte-sjæ ore  
話だから, お前(の<sub>0</sub>と<sub>0</sub>こ)を 売って オレ

zjēni mo·gede kite futarisi-te wagerajaqte  
銭 儲けて 来て 二人して 分けろよと

so·daN-siteda wageda. sitaba konda-sjæ kore-  
相談していた わけた。 そしたら こんどは これ

hæ ē·kodo kida-do asama-ni nan nandogi keba  
は よいこと 聞いたと, 朝に 何時に 来いば

ē, sitaba-sjæ kicane-dosa ju-nisæ asama-ne  
いい (という<sub>0</sub>と)したら 狐に 言うに 朝まに

hajo-ne hajægu ke·jaqte ko·eqta wage-da.  
早うに 早く 来いよって こう 言った わけた。

jo·si-do omoqte kondo-sjæ baguro kondo cūgi-  
よーしと 思<sub>0</sub>って, こんど 博<sub>0</sub>勞<sub>0</sub> こんど 次

no asama-ni kondo-sjæ hajoogi-ni hajægu  
の 朝まに こんど 早起きに 早く

maganaqte gōzja kite fukāgasa kābute kon-  
身支度をして 莫<sub>0</sub>塵<sub>0</sub>を 着て 深<sub>0</sub>笠<sub>0</sub>を 冠<sub>0</sub>って こん

da-sjæ degagede eqta wage-da.  
ど 出<sub>0</sub>掛<sub>0</sub>けて 行<sub>0</sub>った わけた。

musi: edagæ. oq haeneganaja. aja hajægu  
ムーよ。 いたかね。 おっ、早いねか。 うん、 早く

eganeba nāne, abeja·sitara-sjæ musi. bageda  
行かなければ ならない, さあ行こうや。 したら むじなは 化けた

wage-da. nanto moqto jogu bagere-dæ. kogo-no  
わけた。 なんと もっと よく 化けるよ。 この

adari anmari nigu taranedæqte nadere-ba-sjæ  
あたり あんまり 肉が 足らないよといって 撫<sub>0</sub>で<sub>0</sub>れば

mada konda ē·anbæ-ni naru wage-da.  
また こんどは いい 具合に なる わけた。

sa. konda siqkari siqkari nāndede konda-sjæ,  
さあ, こんどは しっかり しっかり 撫<sub>0</sub>で<sub>0</sub>て こんど



na·Nto konda e· anbaē-ni naqta-dæ ego·dæ.  
 なんと こんど いい 具合に なったよ 行こうよ。

temodo-ne sagaja-sa eqte kasi unte kuqtara  
 酒屋へ 行って 糟を たくさん 食ったら

nīdede ke·joqte. o· o·qte. sosite keba zjeni  
 逃げて 来いよってえ。 おー おーってえ。 そして 来いば 銭

wageranaqte ju·dajaç# āN nda nda zjeni wage-  
 分けろうよなあって 言ったのに対して うんうん そうだそうだ 銭 分け

ruqte, eqta wageda.  
 ると 言った わけだ。

sitaba kondo-sjæ ma e· anbaēni bageda. sa.  
 そしたら こんど まあ いい あんばいに 化けた。 さあ、

ore noqte egudæqte ke-qc# buqtadæte, kondo-  
 オレ 乗って 行くよって お尻を ぶったたいて こんど

sjæ z#qto funagosī-no sagajamidæna (dogo-sa)  
 ずーっと 船越の 酒屋みたいな (所へ)

noqte eqta wage-sjæ. na·nto mireba miruhodo-  
 乗って 行った わけよ。 なんと 見れば 見るほど

sjæ e·fæ ūma-da wage-dana. kondo-sjæ sono  
 いい 馬だ わけだな。 こんど、 その

koro-no kaneme-dara-sjæ nanboganē uqtada-ga  
 頃の 金目なら どれくらいに 売ったのか

wagarane-domo, o·gada e· ne-ni uqta wage-sjæ.  
 分らないけれど、 だいたい よい 値に 売った わけさ。

sosite konda e-sa kite sirane furisite, sono  
 そして こんどは 家へ 来て 知らない フリして、 その

ūma eqpigi tānda mo·ge-de-gaē sono baguro-sjæ  
 馬 一匹 ただ 儲けてねえ、 その 博勞

jorokondeda wage-da. sokode kondo, sono na-  
 喜んでいた わけだ。 そこで こんど、 その 何

nisite, mūzina kondo-sjæ e· kagen kas# kute  
 して、 むじな こんど いい かげんに 糟 食って

ũntagu naqta-do. maja-gara, koede, nĩðede  
 いやに なった。 馬小屋から、 越えて、 逃げて

kita wage-da. kisi. kisi. zjeN wagero-dæqte  
 来た わけた。 キーよ、 キーよ。 銭 分けろうよって

kita. kono cikisjo Nða ore-dosa uso māðejã-  
 来た。 この 畜生！ 貴様 オレに ウソ(嘘) つきや

ðaqte futo kesa mugæne eqtaba, soete hogo-sa  
 がって、 ひとが けさ 迎えに 行ったら そして 不明 こそへ  
 (自分をいう) (自分) (不明) (不明)

kagurede enede ema sũðuni dʒeN nosimo jogu  
 隠れて いないで、 今 すぐに 銭 (

degida-dote futari site kondo keN-kwa amaqtar-  
 ) 二人 で こんど ケンカを はじめた

dona. nanmo kanmo, siræ deba kuræqte kumiuci  
 と。 なにも かもすべて、 白いと いえば 黒いと言って、 組打ちを

jaqta wa-g-e-da. sitaba sono baguro konda  
 やった わけた。 そしたら その 博勞 こんどは

zjeN unto mo-gede simate kondo kiçune-do  
 銭 うんと 儲けて しまつて こんど 狐と

mũzina ..... (未完のままテープ切れにて無録音)  
 むじな .....

#### ④ 無実の罪に泣く如来さま

解説：和尚さんがこっそりかくして賞味していた＜烏賊の塩辛＞小僧が発見留守中deroqto  
 と食ってその罪を、あろうことか、如来様に塗りつけたという話。つまり塩辛を御堂の如来さん  
 に塗りたくっておいたのである。さては和尚に打たれて如来さん＜食わん＞＜食わん＞＜それ見  
 ろ小僧クワンではないか＞小僧なにくそとこんどは如来さんをそっくり釜へ、ついに如来＜クタ  
 クタ クタ＞＜それ御覧じろ和尚さん云々＞となる。

N (mukasĩ-no oqsan māNçu ma-sjæ), namakusamono  
 ( 昔の 和尚さん まず まあ ), 生臭物  
 なまぐさぶつ

kuẽba-sjæ nāmakusa-bo-zuqte ewareruqte-sjæ  
 食えば 生臭坊頭と 言われるといて、

kobocja-ni kwasenede oqsan-bari kuqta monda  
小坊頭に 食べせないで 和尚さんばかり 食って いた

wage-da, mugasi-ne-na. soe kondo-sjæ ega-no-  
わけだ, 昔になあ。 それ, こんど, 烏賊の

sjogara kame-sa kagusi-te sosti-te-sjæ soqte  
塩辛を 甕に 隠して, そしてよ, そして

zibun-de kondo ogjo-ni dehata wage-da. sita  
自分で こんど お経に 外出した わけだ。 そうした

ori-ni kondo kobo. je-ne e-de sono sasasi-te  
折に, こんど 小坊が 家に いて, その, 探して

aqte sono ega-no-sjogara kame-ni futoçu de-  
歩いて, その 烏賊の塩辛を 甕に ひとつ デ

roqto kutesimata wage-da. soede kondo sono  
ロリと 食ってしまった わけだ。 それで, こんど その

oqsan kitesjæ sono ega-no-sjogara kudo omote  
和尚さん (帰って) 来て その 烏賊の塩辛を 食おうと 思って

midaba ne wage-da, namo. soegara sono oqsan  
見たら, ない わけだ, すっかり。 それから その 和尚さん

ju-ni, kozo. kono ega-no-sjogara dare kuqta-  
言うには, 「小僧! この 烏賊の塩辛, だれが 食った」

teba-sjæ kuqta kuqta no-gori-sjæ njoræsan-sa  
と言ったら, (食った) 食った のこりを 如来さんへ

deroqto noqte oeda wage-da. sogode, njoræsan  
デロリと 塗って おいた わけだ。 そこで, 「如来さんが

kuqtaentaqte so. eqta wage-da. njoræsan sje-  
食ったようだ」と そう 言った わけだ。 「如来さんが, それな

ba sjogara kuqte ju. kodo aruga. uso-dara  
ら, 塩辛を 食って いう こと あるか」 うそなら  
(うそだと思うなら)

midekere, osjosan. njoræsan mamande kuçicju-  
「みてくれ 和尚さん」 (みたら) 如来さん すっかり 口中

sjæ sjogara nodagute eda-do. uso-dara mini  
塩辛を 塗りたくって いたと。 うそなら 見に

ande kereqte, eqte midaba na·ruhodo njoræsaN-  
一緒に来て くれっていうので 行って みたら なるほど 如来さん

sa maroqkiri sjogara nodaguteda wageda.  
へ すっかり 塩辛を 塗りたくっていた わけだ。

soede kondo njoræsaN-sjæ hontoni-mo-sjæ kuqta-  
それで こんど 如来さんが ほんとに (塩辛を) 食っ

ga kwanegaqte kondo-sjæ kōnbo-do oqsaN-do  
たか 食わないかといって こんど 小坊と 和尚さんと、

kondo kenkwa-ni naqta wage-da. soede kondo  
こんど、 ケンカに なった わけだ。 それで、 こんど、

masaga-ri moqte-sjæ njoræsaN-dogo kondo tada-  
マサカリを 持って 如来さんを こんど 叩い  
たた

da-do. konda-ni-sjæ kuqte kuçi-sa cæke-de ede  
たと。 このように 食って 口へ つけて いて  
くち

nasite-sjæ kwaneqte sono nna kodo arumōN-dado  
何で 食わない そんなこと あるものかと

mote tadadaba-sjæ njoræsaN kwan kwanqte nada  
思っ て 叩いたら 如来さん くわん くわんと

naqta wage-da. sono njoræsaN masagarimoqte  
泣いた わけだ。 その 如来さん マサカリで  
(鳴いた)

tadadaba kwan kwanqte, so·ra kwaneqte juqta  
叩いたら クワン クワンと、 そーら 食わんって 言った、

hora, kōnzo· nna kuqtaacu-ni maçigae neqte.  
ほら 小僧 貴様 食ったのに ま違い ないってえ。

josi, sitara-sjæ dogo-mademo so· jaqte kuçi  
よし、 それなら、 どこまでも そう して 口  
くち

oçinegoqtaba njoraæsaN-dogo nide simauqte.  
落ちないことなら 如来さんを 煮て しまうってえ。

kama-sa o·gida kama-sa kondo-sjæ hi tade,  
釜へ 大きな 釜へ こんど 火 焚いて

njoraæsaN sjede nida wage-da. nidate kita-ba  
如来さんを 入れて 煮た わけだ。 煮立って 来たら

kuta kuta kuta kuta kuta kuta kutaqte nada  
クタ クタ クタ クタ クタ クタ クタって 鳴った

wage-da. soede, njoræsan-sjæ osjosan kore  
わけだ。 それで、 如来さん、 和尚さん これ

mire-do. kondo kuçi oçidaga-na, kuta kuta  
みろと。 こんど □ 落ちたかな、 食タ 食タ  
クヂ

kuta kutaqte ju-do. so. ju. wagede kondo  
食タ 食タって 言うぞ。 そう いう わけで こんど

kobo-ni kaqte oqsan mageda-do.  
(子)坊に かかって 和尚さん 負けたと。  
小

⑤ ダンゴがドンになった話コ

解説：流布広い昔話。

ドンと小川を飛びこえたら忘れじと連呼し来りしダンゴがドンとなり、ついに夫婦ゲンクワとなる。馬鹿聲じれったさに嫁をゴワンと、嫁立腹ヒトノ アダマサ ダンゴミデダコブツグテと  
なって、ダンゴが馬鹿殿の頭によく登場となる。

N bagamugo ede aqta wage-da-na.  
馬鹿聲が いた わけだ。

sogode, kondo-sjæ jome moraqtaba, jome-no  
そこで、 こんど 嫁を もらったら 嫁の

je-sa-sjæ hiðandogi kitaba, kondo asine jaq-  
家へ、 彼岸の時が 来たら、 こんど 遊びに やっ

tado, sono mugo-dogo-na.  
たと、 その 聲をな。

S site maene sjabenegaqta?  
して、 (この話)前に 話さなかった?

N sjabenegaqta-naja  
話さなかったよなあ。

U sjabere sjabere  
シャベレ シャベレ (小さく低い声)

N soregara kondo sogo-no je-no mono konda  
 それから こんど その 家の 者 こんど  
 dānḡo kwasjeda wageda, hiḡanda tameni-na. sa,  
 団子を 食わせた わけだ, 彼岸だのてな。 さあ,  
 sono danḡo nanboga ūmækute kutandaga kuqta-  
 その 団子 どんなにか おいしく 食ったものか, 食っ  
 kodo-mo ne, hanasi-mo siraneḡnda danḡo-de  
 たことも ない, 話にも 聞いたことのないような 団子で  
 ūmægæqtaN-cja kondo kore ūmæ mondana kore  
 とても良かった こんど これ うまい もんだなあ これ  
 nanto ju. mondaqtaba-sjæ danḡo-daḡte. omæ-no  
 なんと いう もんだといったら 団子だってえ。 お前の  
 je-sa ḡqte ore-no dare-sore-ni kosirasje-de  
 家へ 行って オレの だれそれに こしらえさせて  
 (嫁入った娘)  
 kueḡte, so. ḡqta wage-da. konda sono danḡo,  
 食いつて そう 言った わけだ。 こんど その 団子,  
 wasuretagu ne-do (o)mote-sjæ konda-sjæ je-sa  
 忘れたくは ないと 思って, こんどは 家へ  
 kuru-naḡara danḡo danḡo danḡo danḡoḡte, do-  
 来ながら 団子 団子 団子 団子って ど  
 go-mademo-sjæ danḡo danḡoḡte kita wage-da.  
 こまでも 団子 団子って 来た わけだ。  
 sjegi ḡppo aqta wage-da. nanto madagænakute  
 小川 一本 あった わけだ。 なんと またがれなくて  
 donto madanda wage-da. sa. kondo danḡo wasu-  
 ドンと またいだ わけだ。 さあ, こんど 団子 忘  
 rede simate don donḡte kita wage-da. sokode  
 れて しまつて ドン ドンって 来た わけだ。 そこで,  
 kondo-sjæ je-sa kite-sjæ abadon kosjo-de kwa-  
 こんど 家へ 来て アバドン こさえて 食  
 (主婦・自分の嫁)  
 sjereḡte so. ḡqta wage-da. tede nanto sjeba  
 わせろつて, そう 言った わけだ。 テデ なんと すれば  
 (主人, 自分の夫)

don te na nno koqtaqte. don kosjode kwasjere,  
 (いい)ドンって なんの こったって。 ドン こさえて 食わせろ。

ema-sjæ nŋa-no jɛ-sa ɛqte don kuqte ki taba  
 今 お前の 家へ 行って ドン 食って 来たら

cito-baga-no umæ mondene, don kwasjre(qtara)  
 ちとやそとの うまい もんではない、 ドン 食わせろっていったら

donqte ora siraneqte, nanto don sirane kodo  
 ドン 知らないって、 なんと ドン 知らない こと

aru mondaga, jɛ-sa ɛqte kosje-de morate keq-  
 ある ものかと、 家さ 行って こさえて もらって 食べ

te ɛqta monda monosjæ sirane-de kodo aru  
 って 言った もんだ もの、 知らないという こと ある

mondaga-to ju-monde kondo kenkwa-ni naqta  
 もんかと いうので、 こんど 喧嘩に なった

wage-da. aba-dogo kondo sitadagani kondo-sjæ  
 わけた。 アバを こんど したたかに こんど

tadade simata wage-da, adama-sa. a:q, ɛdæ,  
 叩いて しまった わけた、 頭を。 あっ、 いたい

ɛdæ, kono tede-jo adama-sa danŋo hodo-no kōbu  
 いたい この テデよ 頭に 団子 ほどの 瘤

cɛ-da. aba, sono danŋo-jaɛ.  
 付いた。 アバ! その 団子よ。

#### ⑥ 風雅を解するジッチャとバンバ

解説：バンバ 髪なく、ジッチャ 鼻なし。＜似たもの夫婦＞でなかなか円満。さすがにバンバは女性、髪なきあたりは掛手拭。ところがさる日のさる折手拭kappariと落ちる。ジッチャ感に堪えず一首、後二句 ヌイデミタレバ グルノカメ、カメはつると、はげ頭。バンバまた負けてはならじと＜花＞に＜鼻＞をあしらい、ハナ ナキトキハ サビシカルラムと詠んだわけ。

N aru mugasi-ni dziqcja-do baba-do ɛde aqtadegaɛ.  
 ある 昔に 爺と 婆 いて あったと。

soe-de konda-sjæ baba-do-ni kami oede negaq-  
 それで こんど 婆さんには 髪が 生えて なかつ

ta wage-da. dziqcja-do-ni hana negaqta wage-  
 た わけだ。 爺さんには 鼻が なかつた わけ

dana. soede fu-fu-ni naqtetado. soede konda-  
 だなぁ。 それで 夫婦に なっていたと。 それで こんど

sjæ baba jama-sa eqte konda-sjæ nimo cu sjoq-  
 婆が 山へ 行って こんど 荷物 背負

te kita wage-sjæ. nanto-sjæ eqsjokeme aqte  
 って 来た わけよ。 なんと 一所懸命 歩いて

kita-ba kowakute konda-sjæ doqsari orosite  
 来たら 疲れはてて ドサリと 降ろして

ko-site-sjæ toqkuragæqte kojasi-ta-ba kami-no  
 こうして ひっくり返って このようにしたら 髪の

ne-sæ sono tenoθoεqko kqpara-do toreda wage-  
 ない その 手拭 カッパと 取れた わけ

da. sogode, dziqcja ju-ni-na na·Nto kondo-sjæ  
 だ。 そこで、 爺さん 言うに なぁんと こんど

nantoga juεba ε·Ndaga ade ne wage-da mida  
 なんとが いえば いいのか 的が ない わけだ、 みた

kodo negaqtaNte, soregara  
 こと なかつたので、 それから

s̄ba-ni kagedaru kageton̄θeqte  
 シバに かけたる 掛手拭

wage-dana  
 わけだなぁ。

noede midareba guru-no kameqte  
 脱いで みたれば グルの カメって

ko. eqta wage-da. sita-ba, sono baba mada  
 こう いった わけだ。 そしたら、 その 婆 また

magedereba e·domo, ore midæna mon-de  
 負けていれば いいけれど、 オレ みたいな もんで、



haru-wa hana, naçu-wa momĩzi agi-wa ki-  
 春は 花 夏は 紅葉 秋は 菊

guqte wage-da  
 って わけだ。

hana nagi togi-wa sabis+karuranqte  
 花 無き 時は さびしかるんって

wage-da. sore-de, doqci-mo doci-da wageda.  
 わけだ。 それで どっちも どっちだという わけだ。

sorede manzjogu sitena. iqsjo owaqtadona.  
 それで 満足 して 一生 終わったとよ。

topi (N parari)  
 トッピ (ンバラリ)

# ⑦ 餅粉の整鼻術

解説：鼻の低いピッチャが餅粉を練っていやたかだかに鼻を整え揚々と寝入りをする。鼻の高くなった男ぶりをハナハナハナホドエーオドゴといっているのがおもしろい。ハナハダ（甚）にハナ（鼻）とホド（程）とを懸けているようである。床入りとなって思わざる伏敵出現。一晚勝負で豪華なハナハナハナホドヨイそれも見るかげもなく退治されたという話である。

N (hana-no) tagæ odogo-buri-no e. jaçu hosiqte  
 (鼻の) 高い 男振りの いい 人が 欲しいとて、

kono futo egugoqtaba ha zibun-de go.kagu-da  
 この 人 行くなら ハァ 自分で 合格で

aqta. soede kondo jaç mançu tade fũda-ni jote  
 あった。 それで こんど やれ まず 立札に よって

mairimasitaqte mançu eqtan tegae. eqtaba  
 参りましたって まず 行ったとよ 行ったら

kondo-sjæ omæ-daba hana fugukute egeneqte  
 こんど お前は 鼻 低くて よくないとて

mançu soe ragudaç-sita wage-da.  
 まず それ 落第した わけだ。

sore-gara mada c̣i-ni etqemo mada omæ-hana-  
 それがら また 次ぎに 行っても また お前の鼻

daba midagunakute egenaqte ju wage-da. mada  
 は 見るくして いけないと いう わけだ。 また

c̣i-ni konda-sjæ nan-to sitara nderoga-do  
 次ぎに こんどは なんと したら いいだろうかと

omote konda-sjæ e mançu eqsjokenme ko hadade  
 思つて こんど いい まず 一所懸命 粉を はたいて

konda-sjæ komoci kosjede e-anbæ-ni site kon-  
 こんどは 粉餅 こしらえて よい具合に して こん

da hana-sa-sjæ ko-site kire-ni noqte-sjæ ko-  
 どは 鼻へ こうして きれいに 塗つて こう

site hanako kosjede eqta wage-da. sosite-sjæ  
 して 鼻ッコ こさえて 行つた わけだ。 そして、

kanban-ni joqte maerimasidado. oeq maçur-sjæ  
 看板に よつて 参りましたと。 おい まず

kono hito-dara go-kagu sanega-do omote cure-  
 この 人なら 合格 しないかと 思つて 連れ

de eq-ta wage-da. nan-to midadogo næ hanaha-  
 て 行つた わけだ。 なんと 見たことも ない ハナハ  
 (鼻基ダをおも

nahana-hodo e odogoda wage-da. nanmo kamo  
 ナハナホド いい 男だ わけだ。 なんも かんも文句なしに  
 しろく言つた?)

hana-daba kire-ni-sjæ nanto cjan-to sita uqte  
 鼻は きれいに なんと ちゃんとした 顔る

e odogoda wage-da. mamande anda midæ-da  
 いい 男だ わけだ。 (それは)まるで 貴方 みたいな

hitodaqtan tegae. sore-de kondo-sjæ kore-daba  
 人であつたとよ。 それで こんど これなら

e-qte kondo hanahana-hodo e mondagara kore-  
 いいつて こんど ハナハナホド いい もんだから これ

ha e odogo-dado omote morata-wage-da. soede  
 ハァ いい 男だど 思つて 貰つたわけだ。 それで

kondo gosju-gi site eqtantegae. etaba e-Nda-  
 こんど 御祝儀 して 行ったとよ。 行ったら それは

tate konda-sjæ neda wage-da. sogo-no ene  
 いいが、 こんどは 寝た わけだ。 その 家に

nanbogahodo nezumi eda mondandaga futo-baue-  
 どれほどか 鼠が いた もんだやら (たった)一晩

sjobu-de sono hana taenzi-site simaqtadona.  
 勝負で その 鼻を 退治して しまったとな。

jaqpari bicja-no modo-no biqcja-de aqtado.  
 やっぱり ビッチャの もとの ビッチャで あったと。  
 (鼻低)

(笑)

K modo-no biqcja  
 もとの ビッチャ

N modo-no biqcja-de aqta wage-da-na. hanahana-  
 もとの ビッチャで あった わけだな。 ハナハナ

hanahodo e. odogode aqta-domo, kondo nezumi-  
 ハナホド いい 男で あったけど、 こんど 鼠

ni kaqte..... kãzirarede .....  
 に かかって ..... かじられて .....

# ⑧ 米ぶぐと粟ぶぐ

解説：ゴギリは＜後家入り＞で後妻のことである。

後妻のママコイジメの話で、コメブグは前妻の子でアワブグは連れ子。途中で話者コメブグとアワブグとをとりちがえたところがある。子供のカクレンボに先妻の子をヌガの中に、わが子をコメの中にかくしたが、ヌカはかるくふわやかでコメブグは生き、コメだと安心して隠したアワブグは重さに息もできず冷たくなっておったでトッピンバラリとなる。

(注) 上記＜ヌカ＞は＜糲穀＞である。

N gogiri, gogiri so.-sjæ mugas+-ne arutogoro-ne  
 (後家入) 後妻、 そう 昔に あるところに  
 後添

gogiri moraŋta wage-sjæ. saŋsjo-no siŋda  
後妻 貰った わけよ。 最初の 死んだ

futo-no ko-wa-sjæ komebugu-doju. onãdo-warasi  
人の 子は 米ブクという 女子童

eda-dosa. konda-sjæ gogiri mada-sjæ awabugu-  
いたとさ。 こんど 後妻 また 粟ブクと

do ju-ko cude jomen naŋte kita wage-da. sore-  
と いう子 連れて 嫁に なって 来た わけだ。 それ

de-sjæ naganaga kondo sono gogiri-sjæ sono  
で なかなか こんど その 後妻よ、 その

komebu-dogo nigusiŋte sinueŋda wage-sjæ.  
米ブクを 憎くて 死ぬような わけよ。  
(死ぬほどにくいの意)

sjeba ano agi-ni naŋta-ba-sjæ kuri furou-ni  
すると、 あの 秋に なったら 栗を 拾うのに

futari-dzucɥ jaŋtaba-sjæ mãŋɥ komebugu-fugu-  
二人一緒に やったら まず 米ブクの袋

ro-no keŋcɥsa-sjæ ana agede, awabugo awabugu-  
の 尻に 穴を あけて、 栗ブゴ 栗ブグ

fuguro-daba-sjæ biŋcɥri noŋtandawage-da.  
の袋は ビッチリ 縫ったわけだ。

soŋde-sjæ komebugu nanbo ɛŋsjokenme furoŋta-  
それで、 米ブグ いくら 一生懸命 拾って

tate tamara-næ wage-da. sono siri-jacɥ-sjæ  
も たまらない わけだ。 その うしろのの (袋)

komebugu-aŋcɥja-daba tamaru wage-da. <K> awa-  
米ブグの のは たまる わけだ。 <K> 栗  
(栗ブグの誤)(袋) <米ブグ>

bugu. > sjeba-sjæ kondo nantomo kantomo je-sa  
ブグ。 > すると こんど 何とも かんとも 家に  
でなく<栗ブグ>だと誤を正した

egeba kondo-sjæ sono oŋagada-sa-sjæ sagi-no  
行けば こんど その 親方へ 先(妻)の

ko-dogo mãŋɥ dohe-dado, nanto kuri-mo furoŋte  
子のことを まず ドへだと、 なんと 栗も 拾って  
<あほう>

kene-de, awabugu-daba-sjæ eqpæ furoqte kite  
 くることができず、粟ブクなら いっぱい 拾って 来て、

komebugu futoqca-mo furoqte kone-do. kondara  
 米ブグ 一つも 拾って 来ないと。 こんな

ko-ne eqte, maenici-no enimānçu-ma-sjæ kusa-  
 子に 言って 毎日の 様にまずまあ 鎖

ricagedeedan tegae. sogode, kondo, aru dogi,  
 つけて(いじめて)いたと。 そこで こんど ある とき

ojagada jotasi-ni eqte enedogi-sæ (言いなおして→)  
 親方 用足しに 行って いない時 (隠れんぼ)

jaru, kagurenbo jareqte kondo juęçage-da wa-  
 やる) 隠れんぼ やれってえ こんど 言い付けた わ

ge-da. sositara ore konda omægada-dogo kagu-  
 けた。 そしたら オレ こんどは お前らを かく

sitē misjeruqte. sositē kondo ōḡako-dogo  
 して みせるってえ。 そして こんど 自分の子を

kondo awabudogo kondo kome-no nagasa kagus-  
 こんど 粟ブクを こんど 米の 中へ かくし

ta wage-da. sore-gara kondo komebugu-dogo  
 た わけた。 それから こんど 米ブクを

noga-no nagasa kagusitēda wage-da. nanbo  
 籾殻の 中へ 隠していた わけた。 いくら

daqte-sjæ sono micukeraene wage-dana, Nna  
 たっても その 見付けられない わけだなあ、 みんな

kagurenbo jaqte sāḡasini aqtatate micukera-  
 隠れんぼ やって 探しに 歩いても 見付から

renæ wage-da. sitaba simē-ni naqte kondo-sjæ  
 ない わけた。 したら、 しまいに なって こんど

nani-siro ōḡako kome-no naga-sa haqte hede  
 何しろ 自分の子 米の 中に 入って 冷えて

simaqte onbodæaçu-de siḡndeda wage-da. noga-  
 しまって 重たいので 死んでいた わけた。 籾殻

no naga-sa haqta ko kondo egideda wage-da.  
の 中に 入った 子 こんど 生きていた わけだ。

soe, sore, ɖɖa kãnzjo-daba mǎndzɹ mǎdzɹ kome-  
それ, それ, 自分の 考えだと まず まず 米

no naga-sa sje-de ogeba kome kuqte egideru-  
の 中へ 入れて おけば 米を 食って 生きている

do omote sosite ɛda wage-sjæ, na. kome kuqte  
と 思って そうし. いた わけよ, なあ. 米を 食って

egideru-do omoqteda jaçɹ-ɖa-sjæ sjede sɪN-de,  
生きていると 思っていたのが 冷えて 死んで,

noga-naga-ni ɛda jaçɹ-wa-sjæ karokesɪ, nogisɪ,  
穀穀の中に いた のわ 軽いし, 温いし,

sorede egideda wage-da. Nde, konzjo wari ko-  
それで 生きていた わけだ. それで, 根性の 悪い こ

do sjeba zibunno ko zibuN-de korosite sosɪ-  
とを すれば 自分の 子を 自分で 殺して そうし

te ɛnegunanne wage-sɪ, na., so. ju. hanasɪ-  
て いなくならねばならぬ わけよ, なあ. そう いう 話

nanda.  
なんだ。

非 売 品

1968年3月

国立国語研究所 話しことば研究室 発行

東京都北区稲付西山町